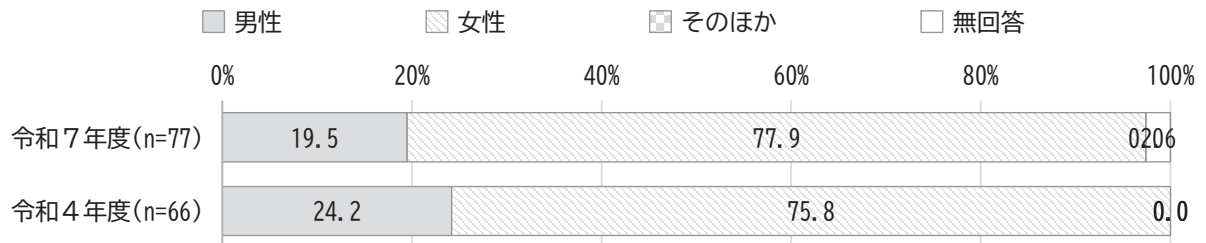


第6章 ケアマネジャー調査

1. 調査の回答者について

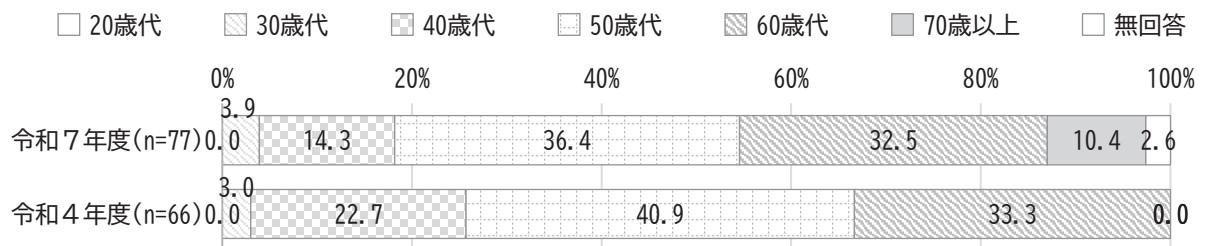
問1 あなたの性別はどちらですか。(単数回答)

「男性」が19.5%、「女性」が77.9%であった。



問2 現在のあなたの年齢は次のどれですか。(単数回答)

「50歳代」が36.4%で最も高く、次いで、「60歳代」が32.5%、「40歳代」が14.3%となっている。

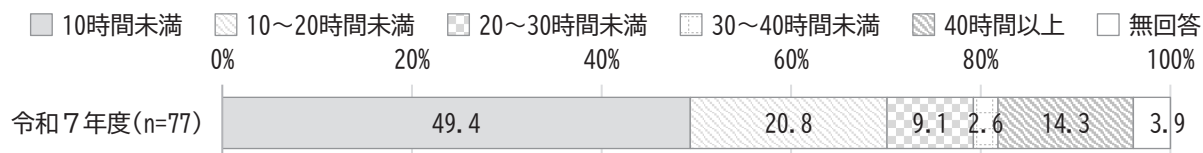


※「60歳代」「70歳以上」について令和4年度では「60歳以上」であった。

2. 勤務形態について

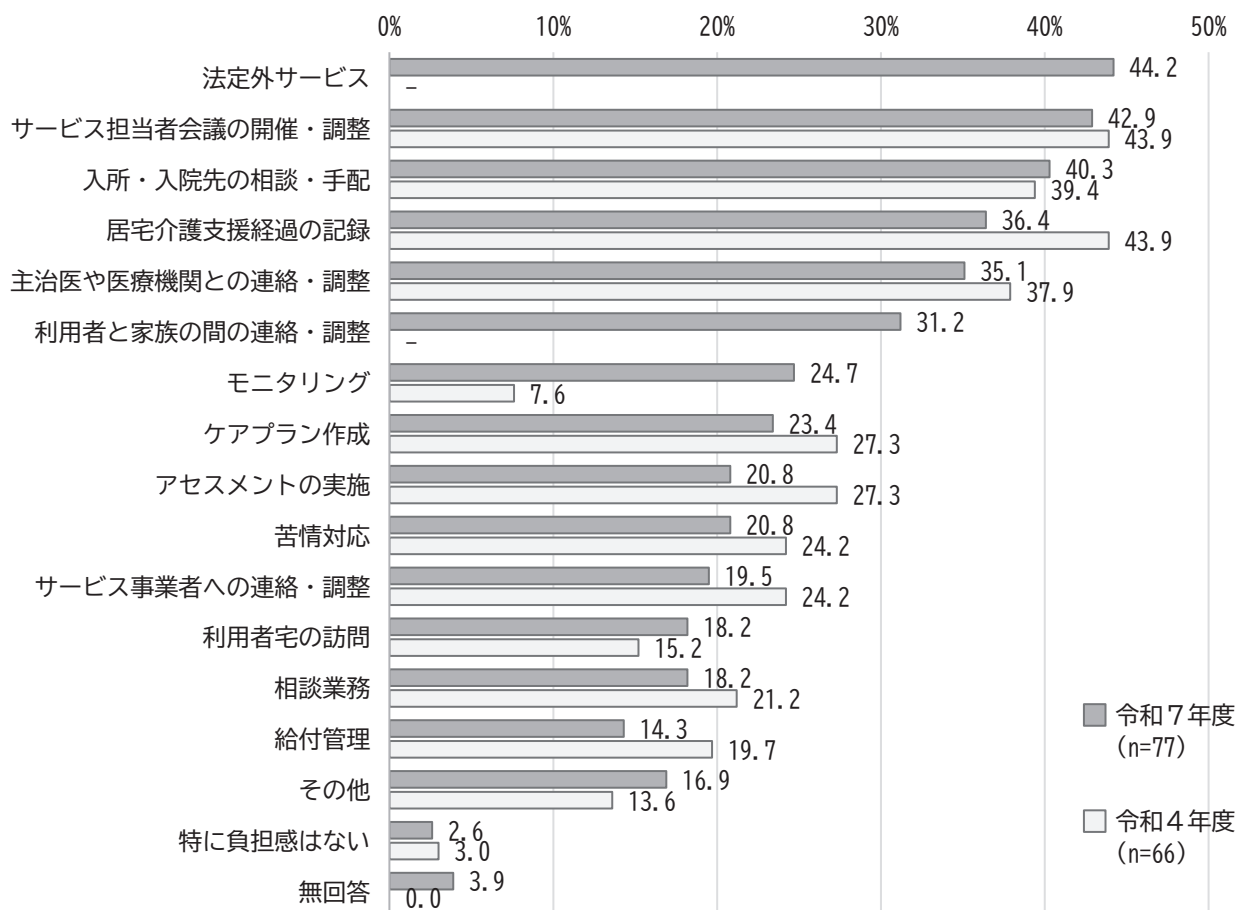
問3 1か月の超過勤務時間はどのくらいですか。(単数回答)

「10時間未満」が49.4%で最も高く、次いで、「10～20時間未満」が20.8%、「40時間以上」が14.3%となっている。



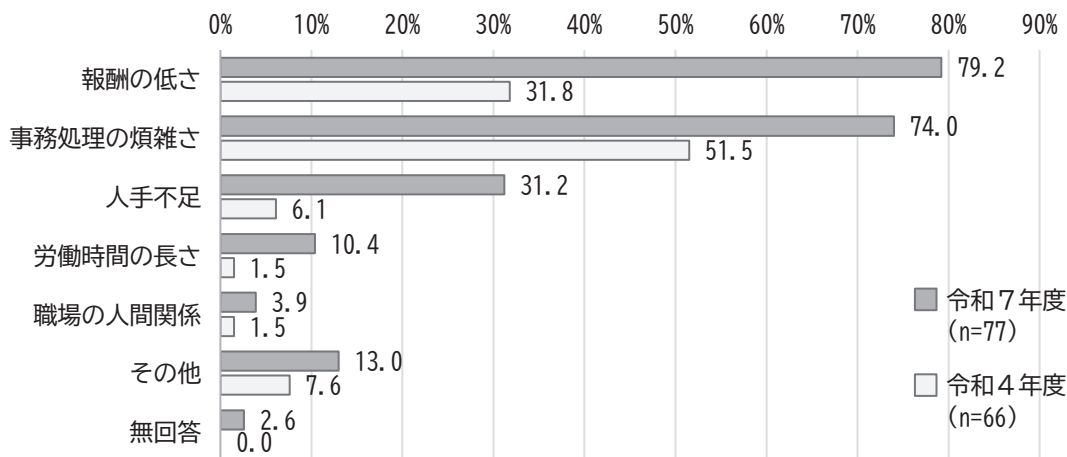
問4 どのような業務に負担感がありますか。(複数回答)

「法定外サービス」が44.2%で最も高く、次いで、「サービス担当者会議の開催・調整」が42.9%、「入所・入院先の相談・手配」が40.3%となっている。



問5 今後ケアマネジャーの仕事が続けていくに当たり、どのような改善が必要だと思いますか。(複数回答)

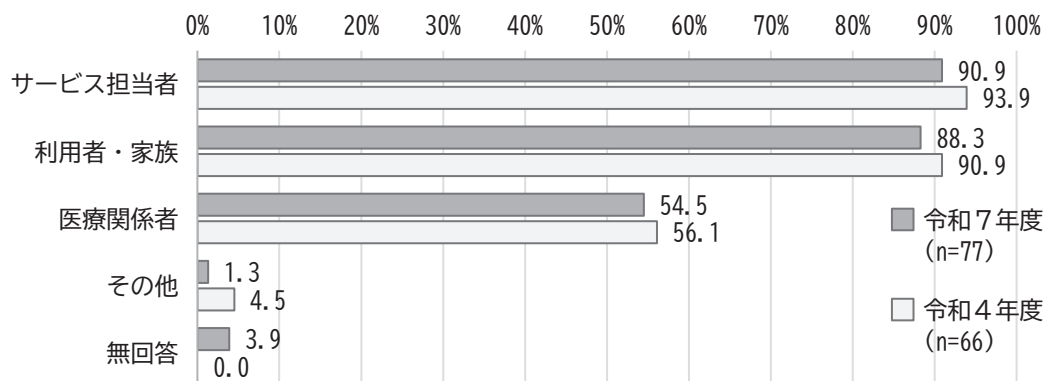
「報酬の低さ」が79.2%で最も高く、次いで、「事務処理の煩雑さ」が74.0%、「人手不足」が31.2%となっている。



3. ケアマネジメントについて

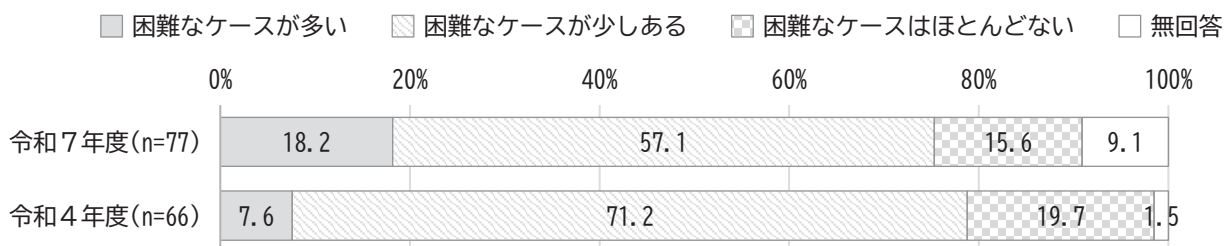
問6 ケアプランの作成にかかわる人はどなたですか。(複数回答)

「サービス担当者」が90.9%で最も高く、次いで、「利用者・家族」が88.3%、「医療関係者」が54.5%となっている。



問7 ケアプランの作成が困難だったケースはどの程度ありますか。(単数回答)

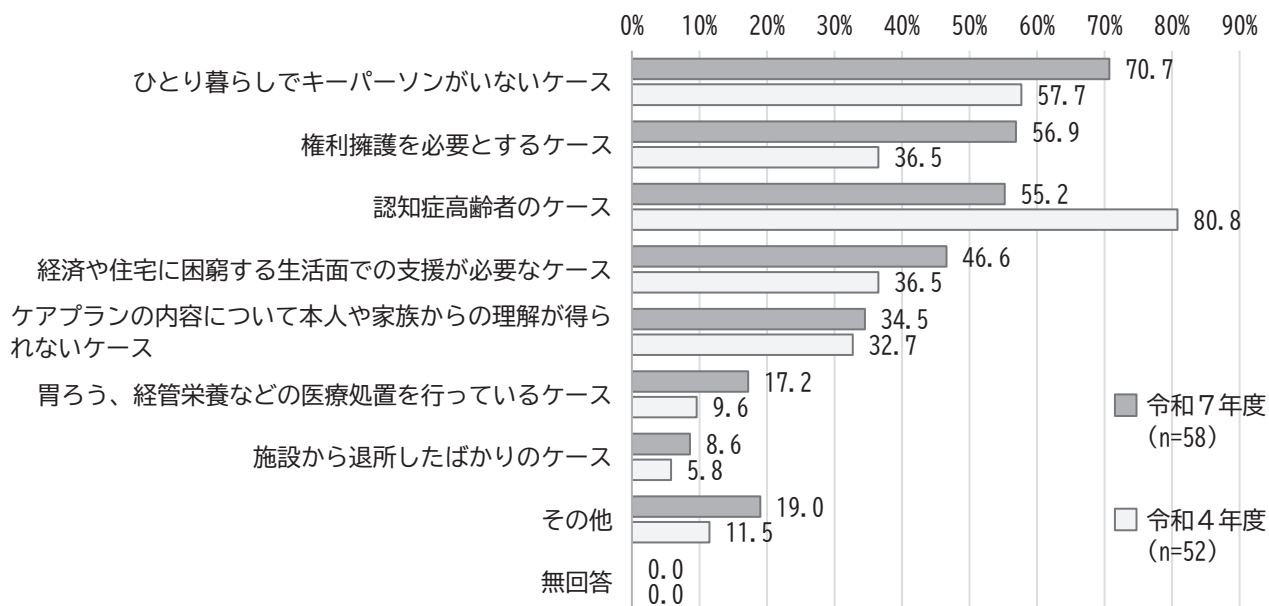
「困難なケースが少しある」が57.1%で最も高く、次いで、「困難なケースが多い」が18.2%、「困難なケースはほとんどない」が15.6%となっている。



【問7で「困難なケースが多い/少しある」と回答した方】

問7-1 困難だったのは、どのようなケースですか。(複数回答)

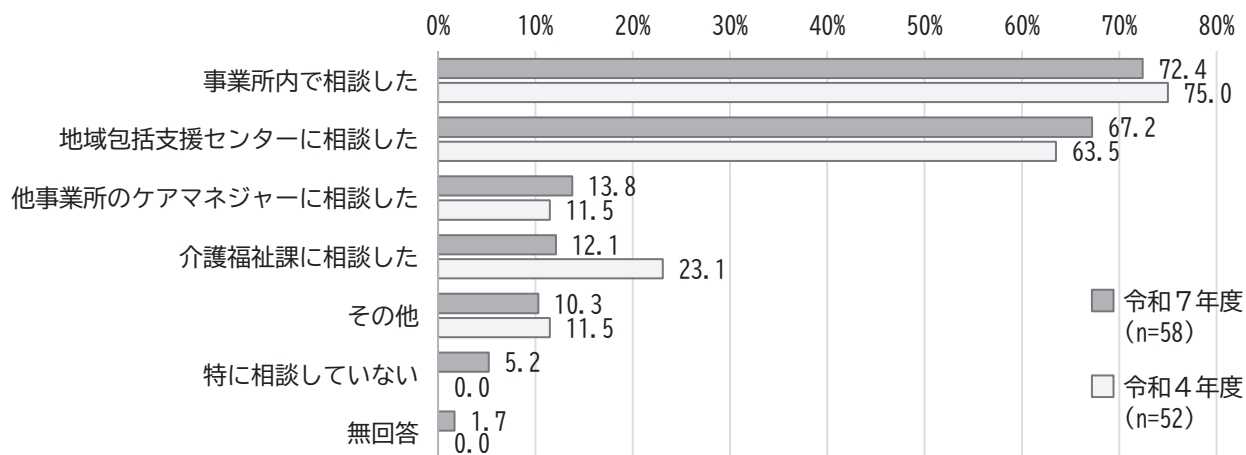
「ひとり暮らしでキーパーソンがいないケース」が70.7%で最も高く、次いで、「権利擁護を必要とするケース」が56.9%、「認知症高齢者のケース」が55.2%となっている。



【問7で「困難なケースが多い/少しある」と回答した方】

問7-2 困難だったケースについて、どこかに相談しましたか。(複数回答)

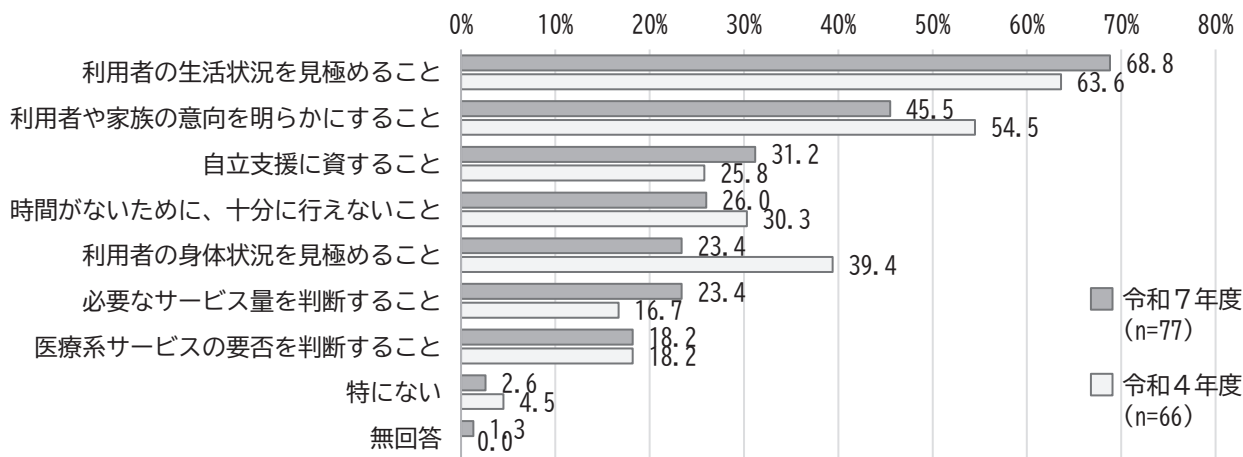
「事業所内で相談した」が72.4%で最も高く、次いで、「地域包括支援センターに相談した」が67.2%、「他事業所のケアマネジャーに相談した」が13.8%となっている。



4. ケアアセスメントの実施状況について

問8 アセスメントを実施する際に難しいと感じることは何ですか。(複数回答)

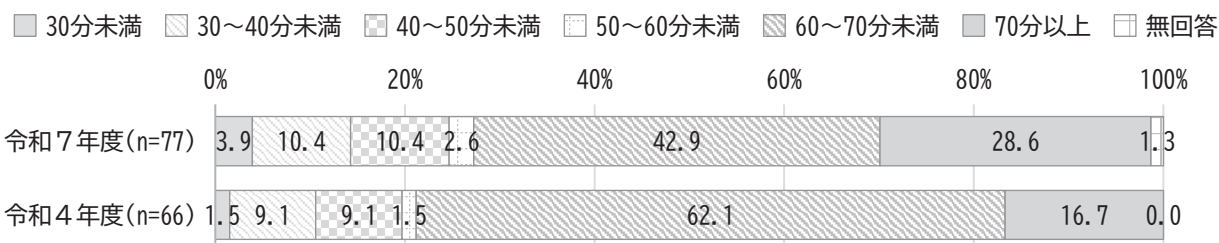
「利用者の生活状況を見極めること」が68.8%で最も高く、次いで、「利用者や家族の意向を明らかにすること」が45.5%、「自立支援に資すること」が31.2%となっている。



問9 1回当たりのモニタリング、アセスメントに要する平均時間はどのくらいですか。(単数回答)

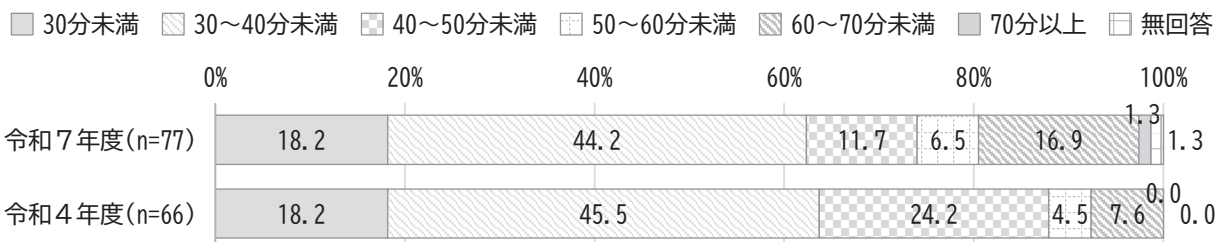
① 初回

「60～70分未満」が42.9%で最も高く、次いで、「70分以上」が28.6%、「30～40分未満」が10.4%となっている。



② 2回目以降の平均時間

「30～40分未満」が44.2%で最も高く、次いで、「30分未満」が18.2%、「60～70分未満」が16.9%となっている。

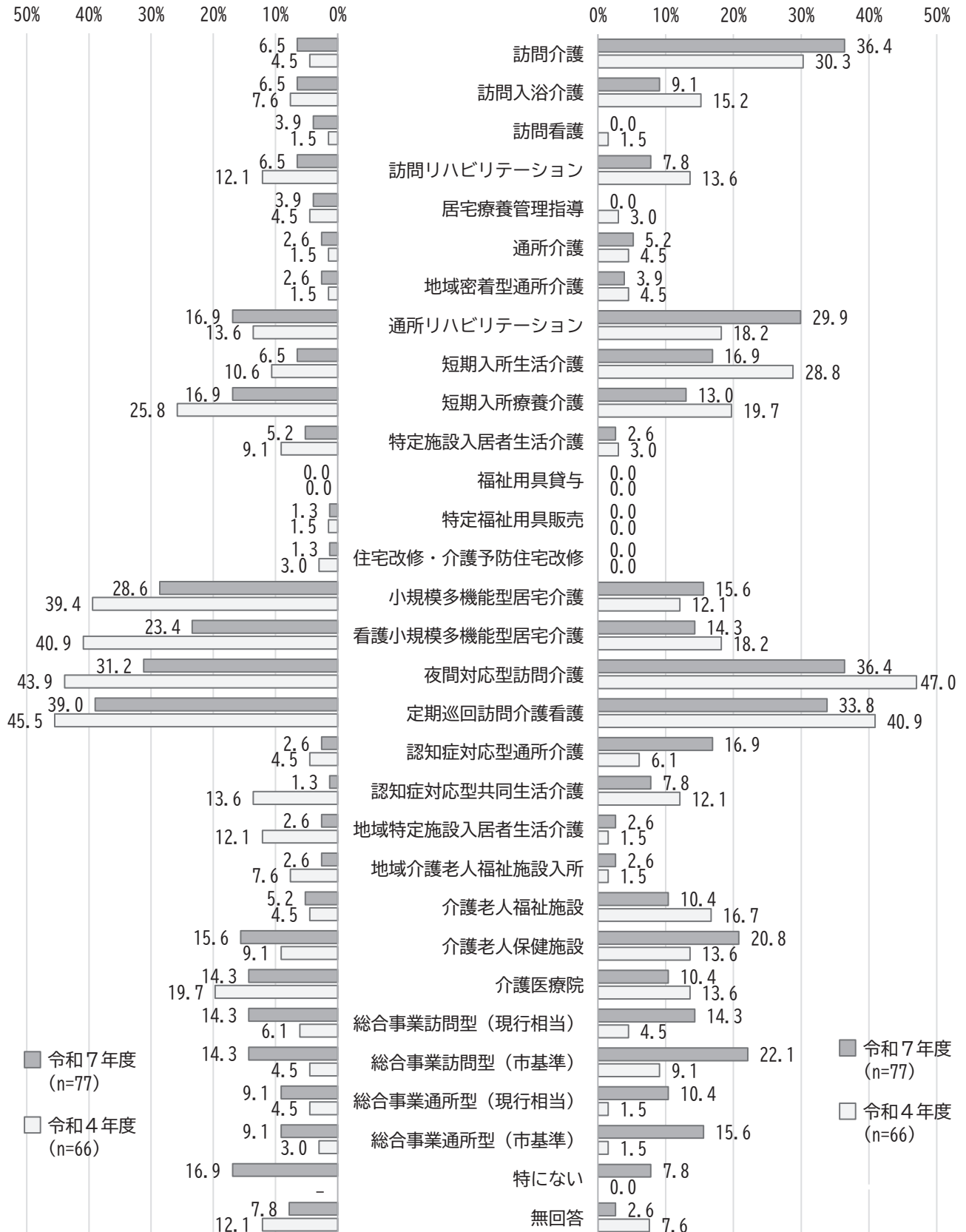


5. 市内のサービス提供体制について

問10 ケアプランを作成するにあたって、利用しにくいと感じているサービス、また、量的に不足していると感じるサービスは何ですか。(複数回答)

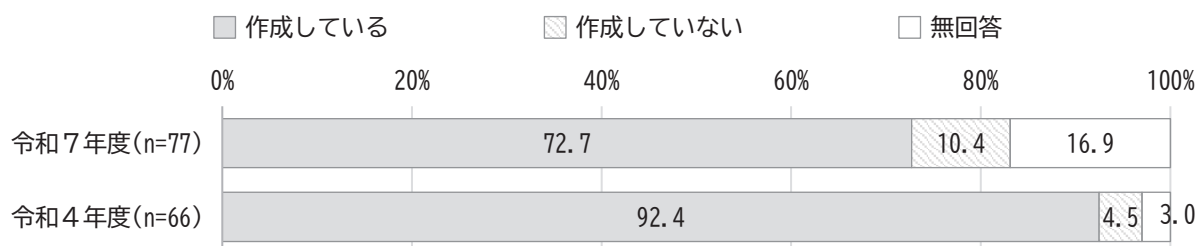
①利用しにくいと感じるサービス

②量的に不足していると感じるサービス



問 11 介護保険以外のサービス等を組み入れてケアプランを作成していますか。(単数回答)

「作成している」が72.7%で最も高く、次いで、「作成していない」が10.4%となっている。

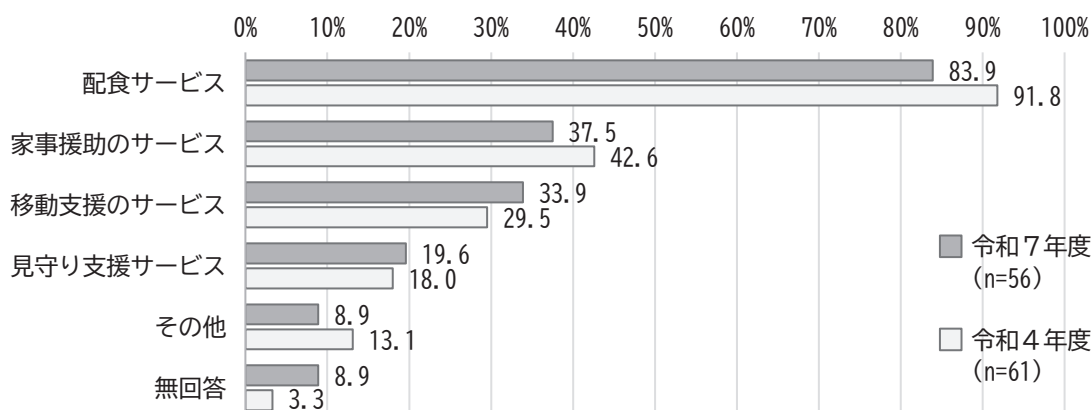


【問 11 で「作成している」と回答した方】

問 11-1 ケアプランを作成する際に検討したことがあるのはどのようなサービスですか。(複数回答)

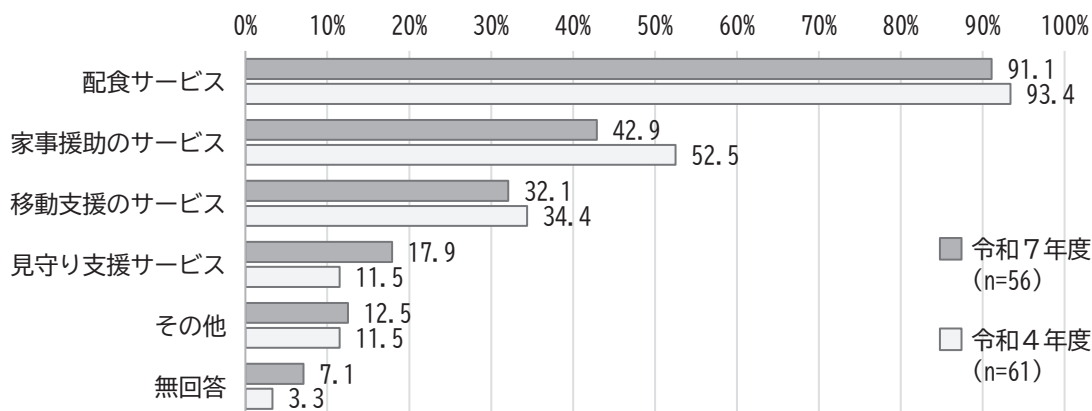
① フォーマルサービス・行政等が制度に基づいて支援するサービス

「配食サービス」が83.9%で最も高く、次いで、「家事援助のサービス」が37.5%、「移動支援のサービス」が33.9%となっている。



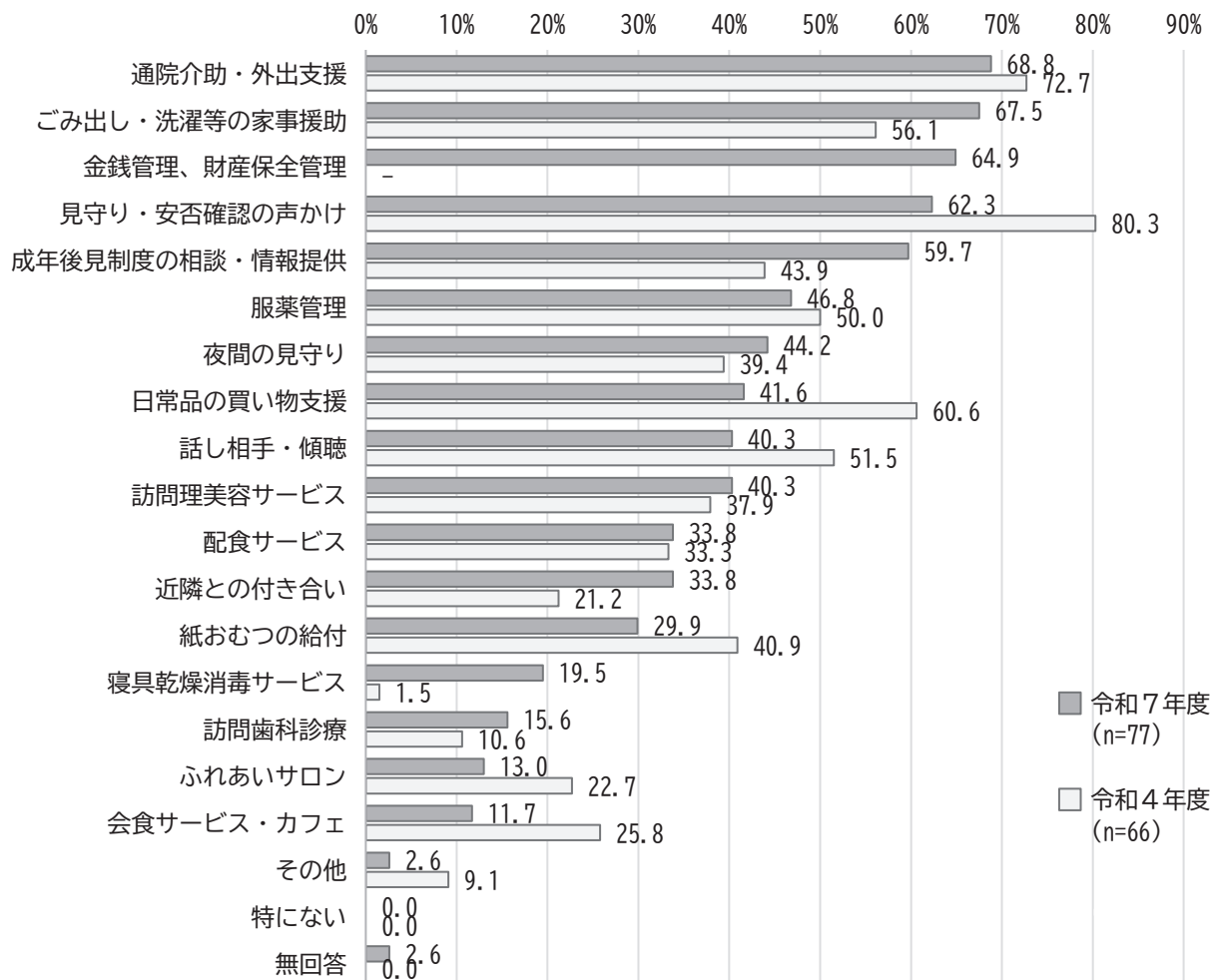
② インフォーマルなサービス・制度外で支援しているサービス

「配食サービス」が80.5%で最も高く、次いで、「家事援助のサービス」が37.7%、「移動支援のサービス」が31.2%となっている。



問 12 高齢者の在宅生活を支えるために、これから充実が必要だと思う「活動」や「生活支援」は次のどれだと思いますか。(複数回答)

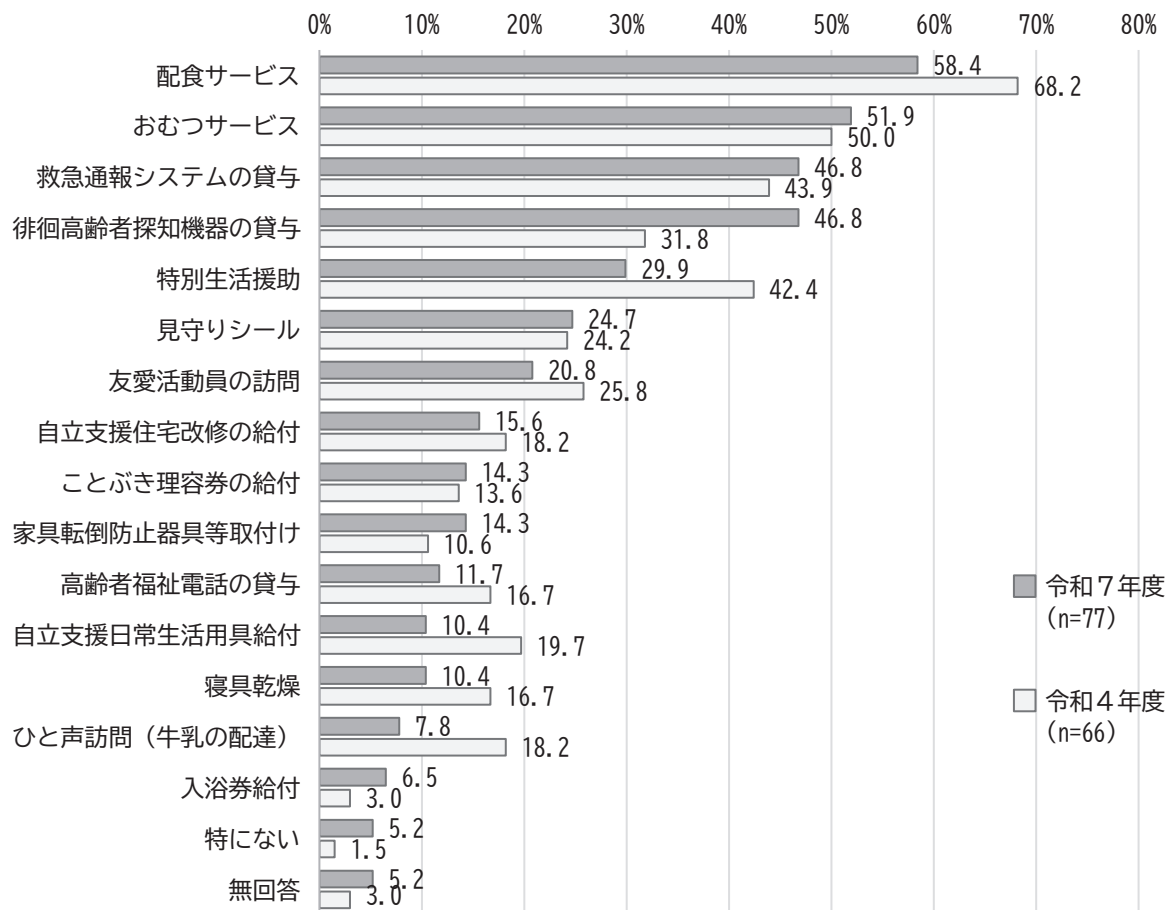
「通院介助・外出支援」が 68.8%で最も高く、次いで、「ごみ出し・洗濯等の家事援助」が 67.5%、「金銭管理、財産保全管理」が 64.9%となっている。



※「夜間の見守り」について令和4年度は「夜間の泊まり込み」であった。

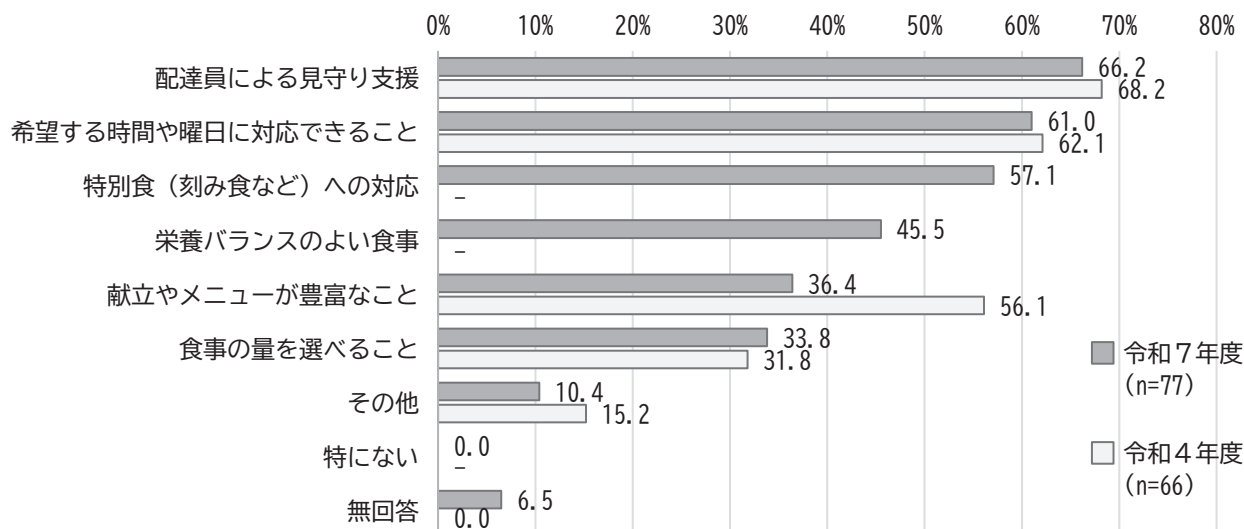
問 13 現在、小金井市では以下のような高齢者保健福祉サービスを実施していますが、今後一層の充実が必要と思うサービスは次のどれですか。（複数回答）

「配食サービス」が 58.4%で最も高く、次いで、「おむつサービス」が 51.9%、「救急通報システムの貸与」が 46.8%となっている。



問 14 配食サービスに望むものは何ですか。

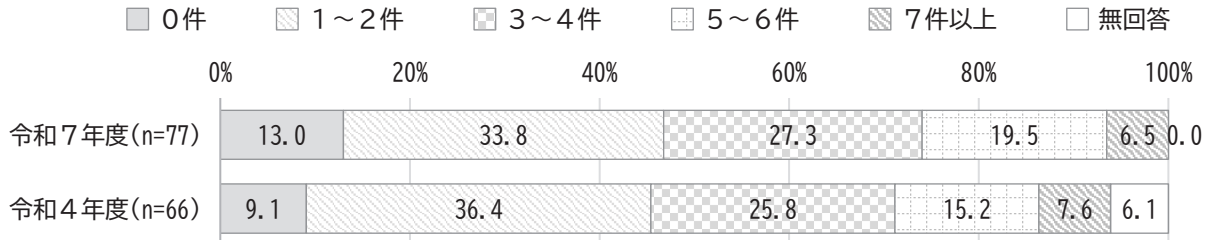
「配達員による見守り支援」が 66.2%で最も高く、次いで、「希望する時間や曜日に対応できること」が 61.0%、「特別食（刻み食など）への対応」が 57.1%となっている。



6. 施設入所について

問 15 あなたが、この1年間で、施設入所を勧めた件数をお書きください。(単数回答)

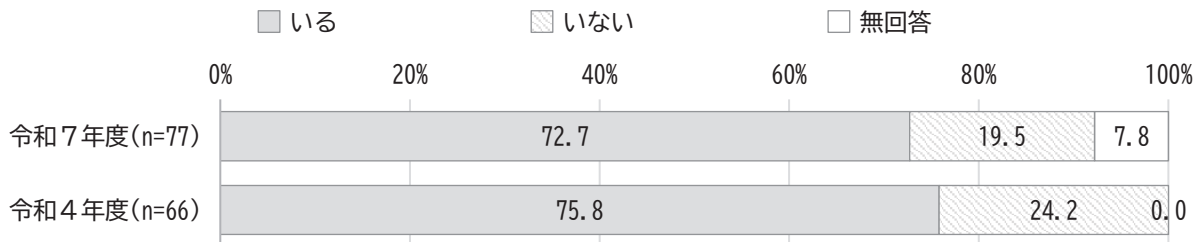
「1～2件」が33.8%で最も高く、次いで、「3～4件」が27.3%、「5～6件」が19.5%となっている。



7. 在宅医療について

問 16 あなたがサービスを提供している利用者の中に、往診が必要と思われる方はいますか。(単数回答) (※患者さんの求めに応じて急変時に行う診療)

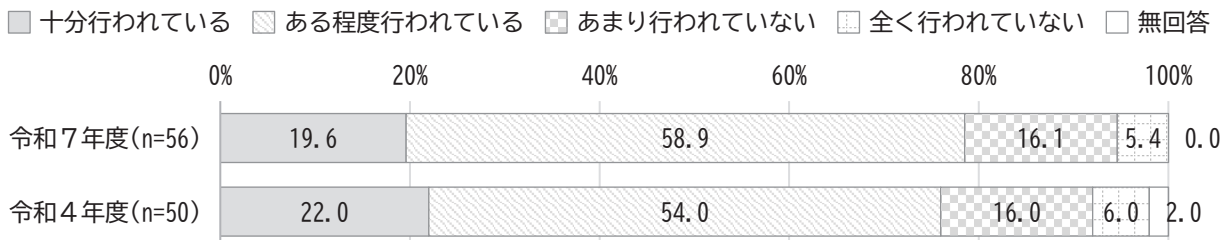
「いる」が72.7%、「いない」が19.5%であった。



【問 16 で「いる」と回答した方】

問 16-1 あなたは、必要な方に往診が十分行われていると思いますか。(単数回答)

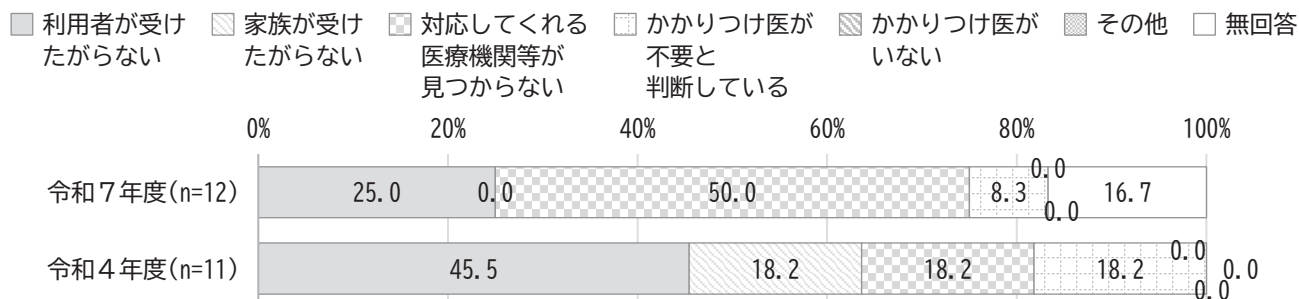
「ある程度行われている」が58.9%で最も高く、次いで、「十分行われている」が19.6%、「あまり行われていない」が16.1%となっている。



【問 16-1 で「あまり/全く行われていない」と回答した方】

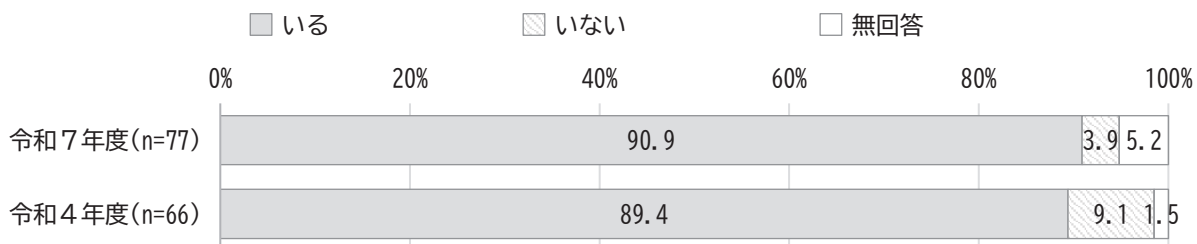
問 16-2 必要なのに実施していないのはなぜですか。(単数回答)

「対応してくれる医療機関等が見つからない」が 50.0%で最も高く、次いで、「利用者が受けたがらない」が 25.0%、「かかりつけ医が不要と判断している」が 8.3%となっている。



問 17 あなたがサービスを提供している利用者の中に、訪問診療が必要と思われる方はいますか。(単数回答) (※通院の困難な患者さん宅に訪問して行う診療)

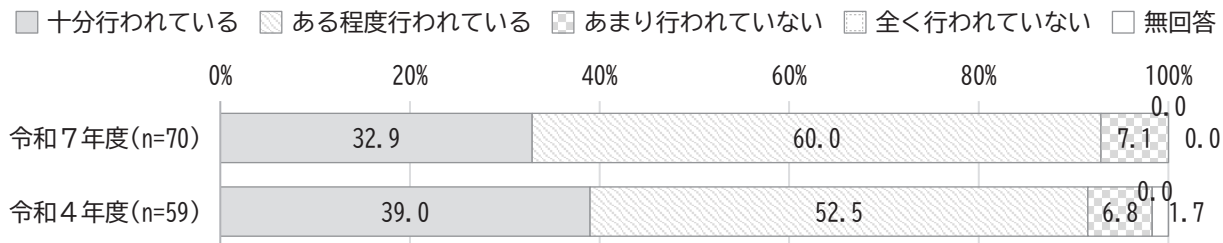
「いる」が 90.9%、「いない」が 3.9%であった。



【問 17 で「いる」と回答した方】

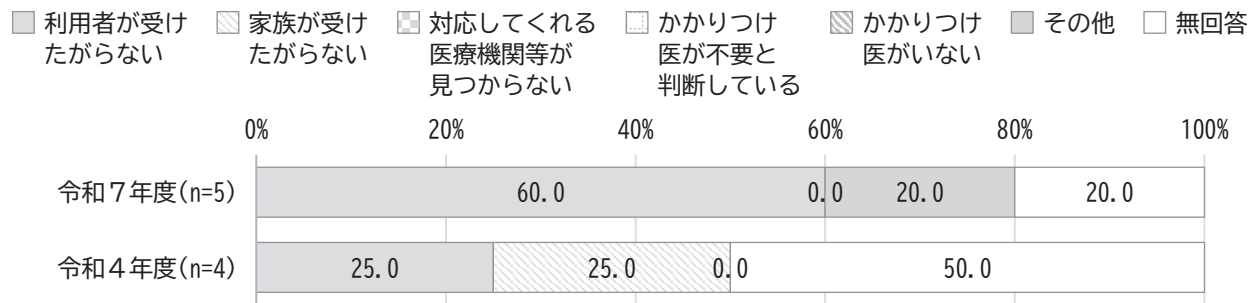
問 17-1 あなたは、必要な方に訪問診療が十分行われていると思いますか。(単数回答)

「ある程度行われている」が 60.0%で最も高く、次いで、「十分行われている」が 32.9%、「あまり行われていない」が 7.1%となっている。



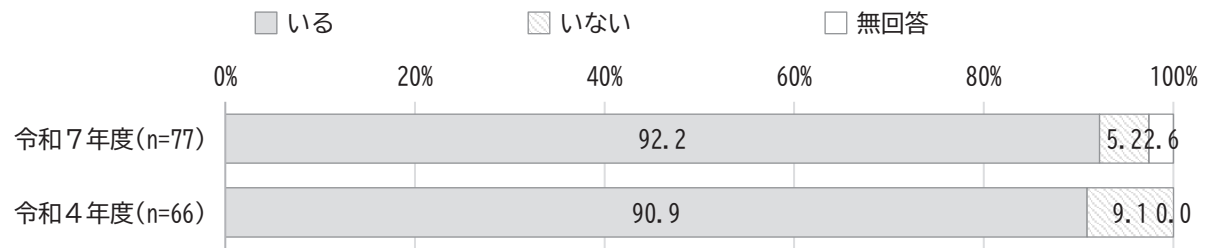
【問 17-1 で「あまり/全く行われていない」と回答した方】
 問 17-2 必要なのに実施していないのはなぜですか。(単数回答)

「利用者が受けがらない」が 60.0%で最も高く、次いで、「その他」が 20.0%となっている。

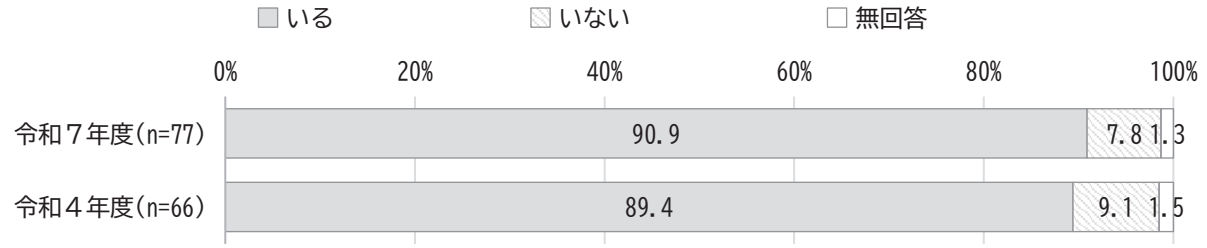


問 18 あなたがサービスを提供している利用者の中に、訪問看護や訪問歯科診療、訪問服薬管理指導が必要と思われる方はいますか。(単数回答)

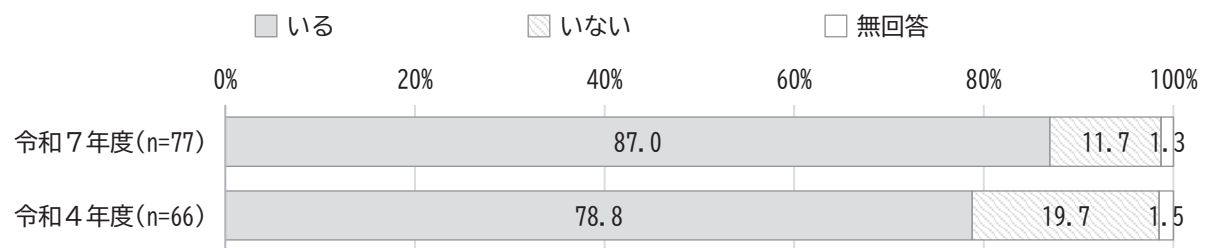
①訪問看護が必要と思われる方は、「いる」が 92.2%、「いない」が 5.2%であった。



②訪問歯科診療が必要と思われる方は、「いる」が 90.9%、「いない」が 7.8%であった。

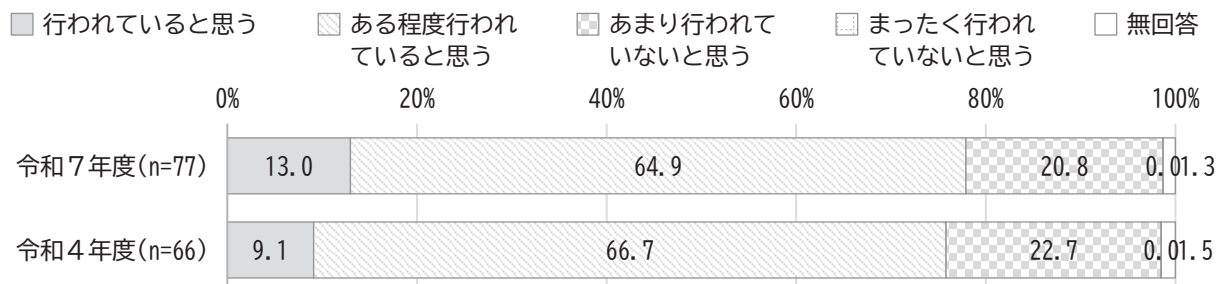


③訪問服薬管理指導が必要と思われる方は、「いる」が 87.0%、「いない」が 11.7%であった。



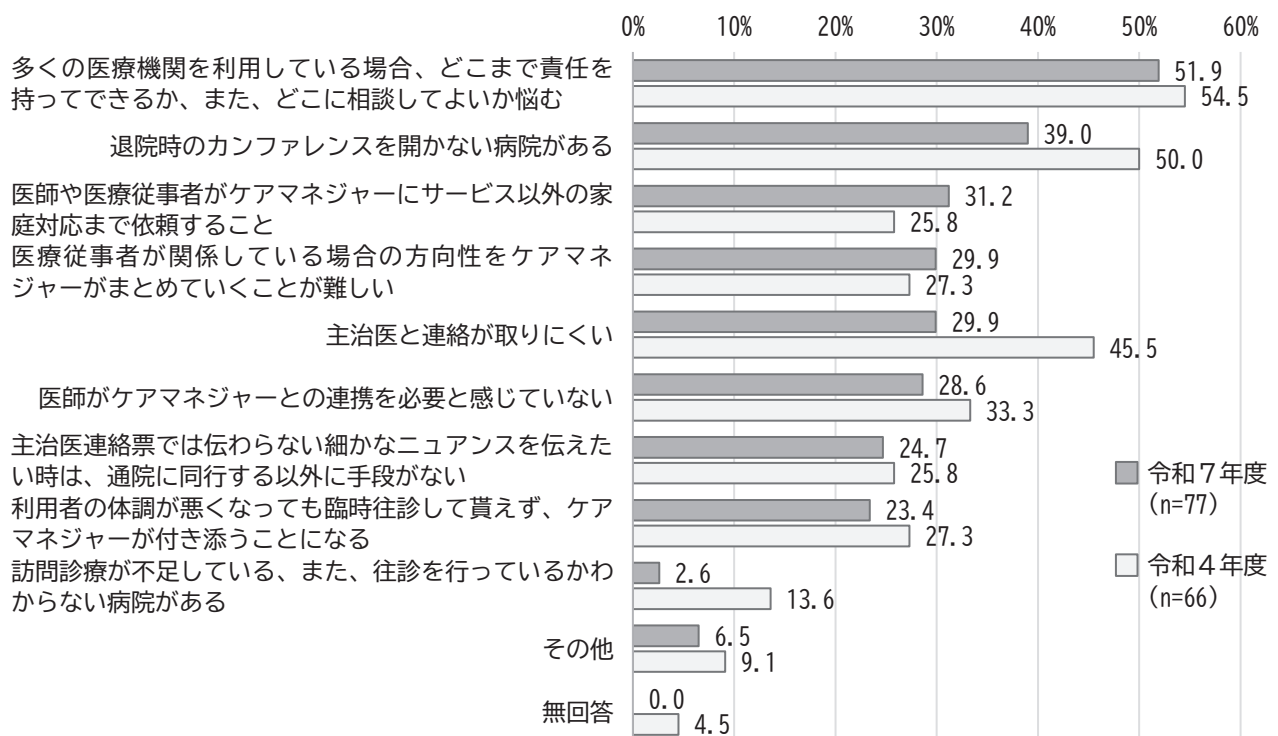
問 19 専門職の立場からみて、市内で在宅療養している高齢者の急変時に医療機関へのスムーズな移行が行われていると思いますか。(単数回答)

「ある程度行われていると思う」が64.9%で最も高く、次いで、「あまり行われていないと思う」が20.8%、「行われていると思う」が13.0%となっている。



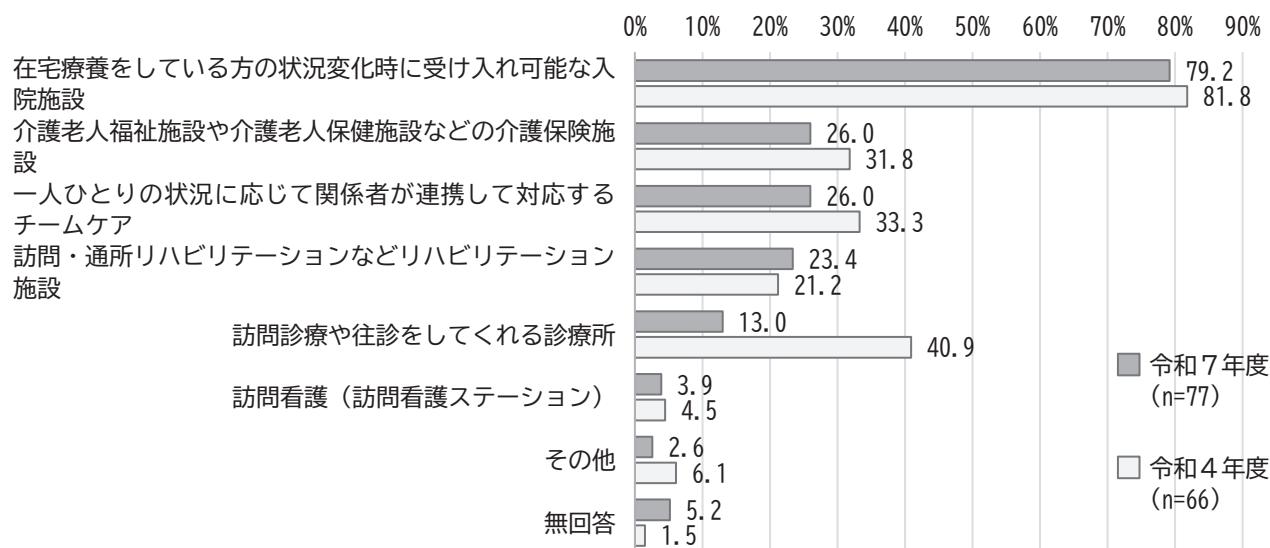
問 20 医療と在宅ケアの関係で苦労していることは何ですか。(複数回答)

「多くの医療機関を利用している場合、総合的な体調管理などをどこまで責任を持ってできるか、また、どこに相談してよいか悩む」が51.9%で最も高く、次いで、「退院時のカンファレンスを開かない病院がある」が39.0%、「医師や医療従事者がケアマネジャーにサービス以外の家庭対応まで依頼すること」が31.2%となっている。



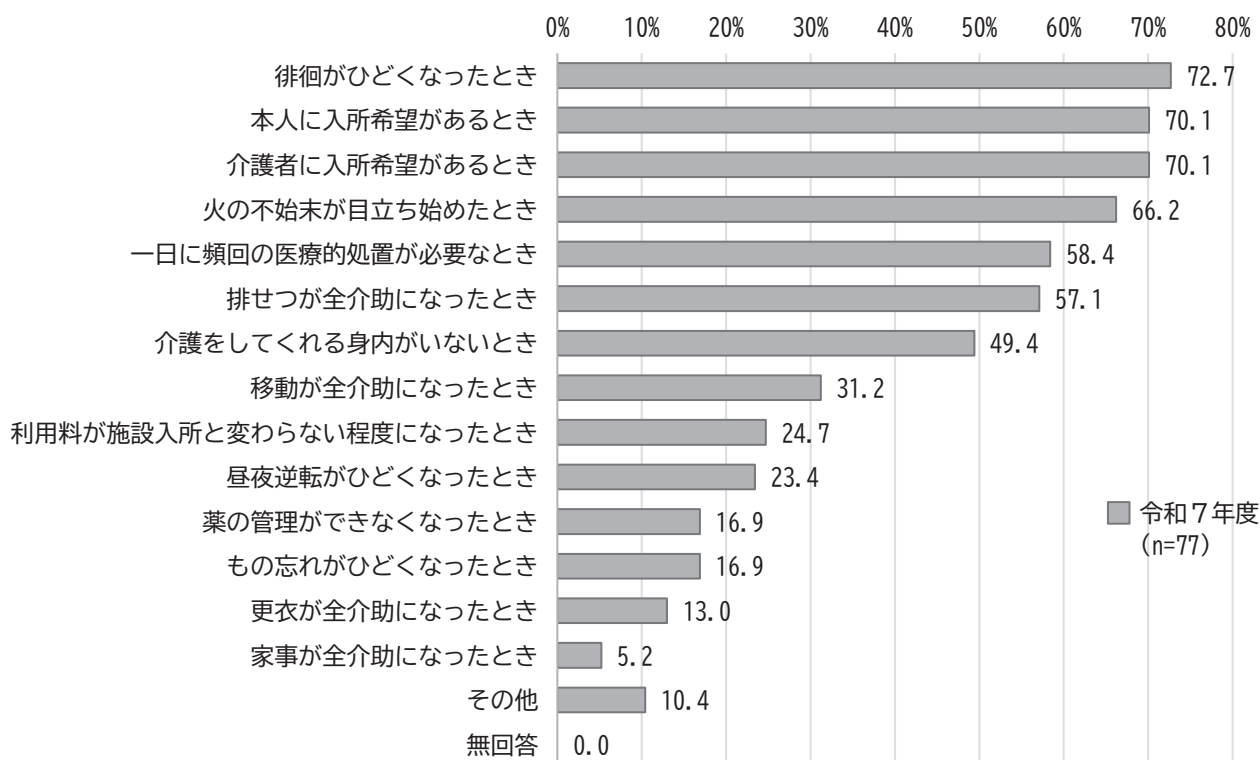
問 21 高齢者の在宅医療を進めていくうえで不足している機能はどのようなことだとお考えですか。(複数回答)

「在宅療養をしている方の状況変化時に受け入れ可能な入院施設」が79.2%で最も高く、次いで、「介護老人福祉施設や介護老人保健施設などの介護保険施設」「一人ひとりの状況に応じて関係者が連携して対応するチームケア」が26.0%となっている。



問 22 在宅介護の限界、施設入所を意識する要因は何だとお考えですか。(複数回答)

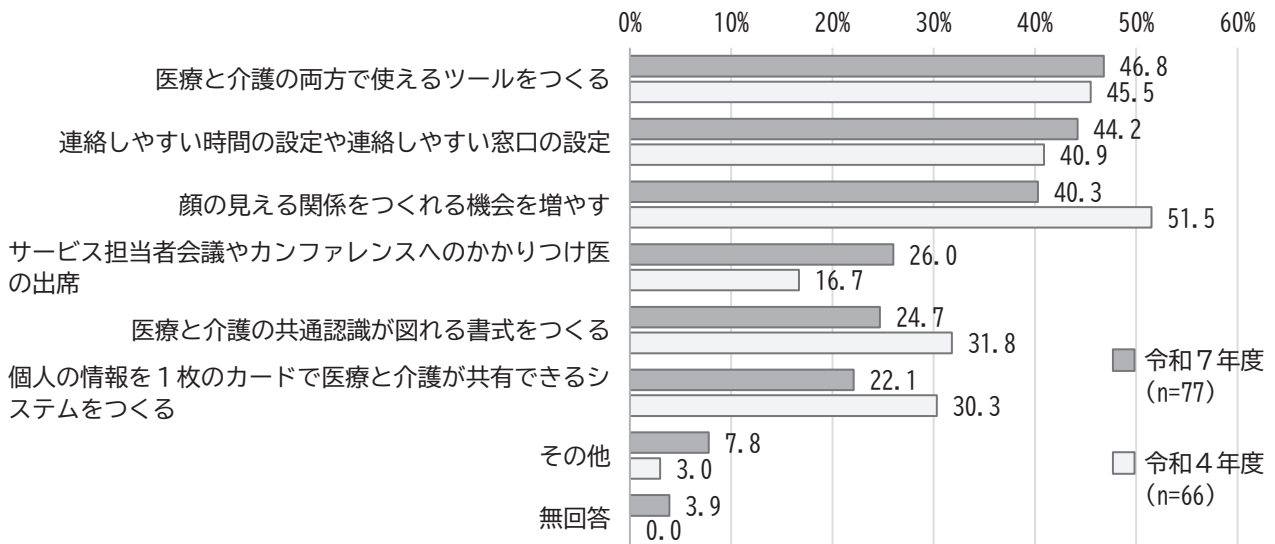
「徘徊がひどくなったとき」が72.7%で最も高く、次いで、「本人に入所希望があるとき」「介護者に入所希望があるとき」が70.1%となっている。



8. 医療・介護連携について

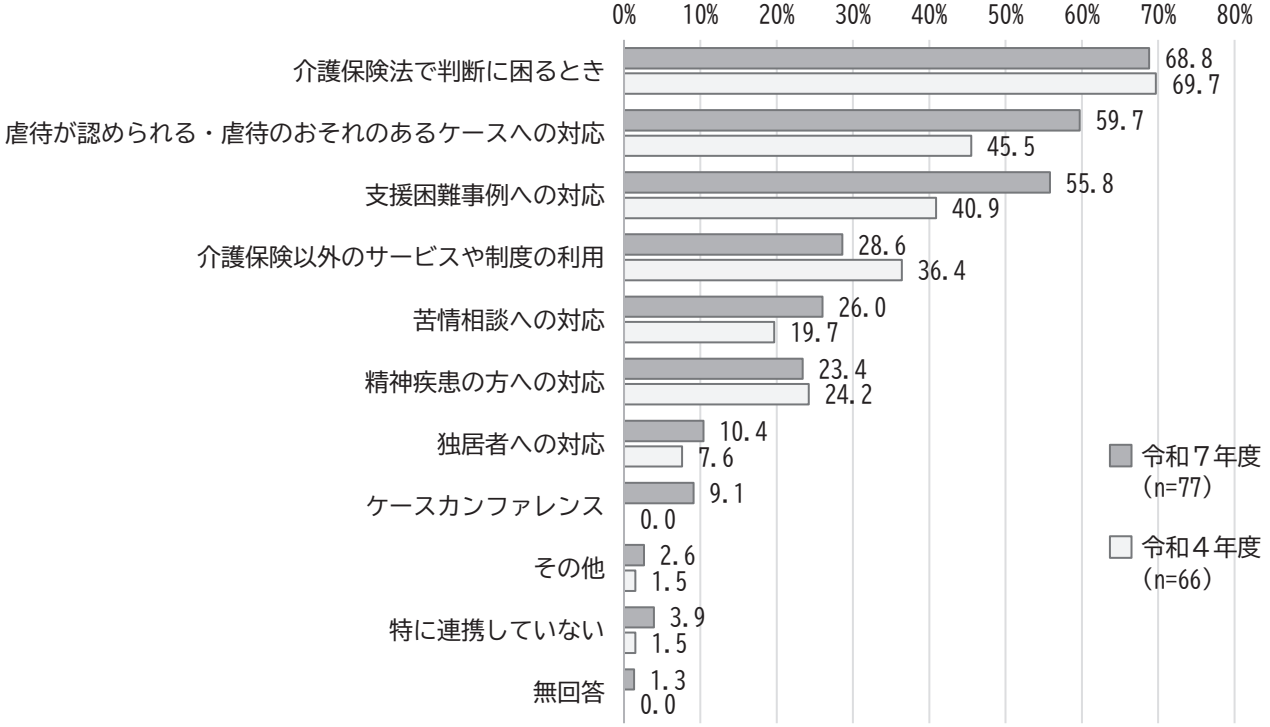
問 23 医療と介護の連携を図るうえでの情報の共有化をどのように進めればよいと思いますか。(複数回答)

「医療と介護の両方で使えるツールをつくる」が46.8%で最も高く、次いで、「連絡しやすい時間の設定や連絡しやすい窓口の設定」が44.2%、「顔の見える関係をつくれる機会を増やす」が40.3%となっている。



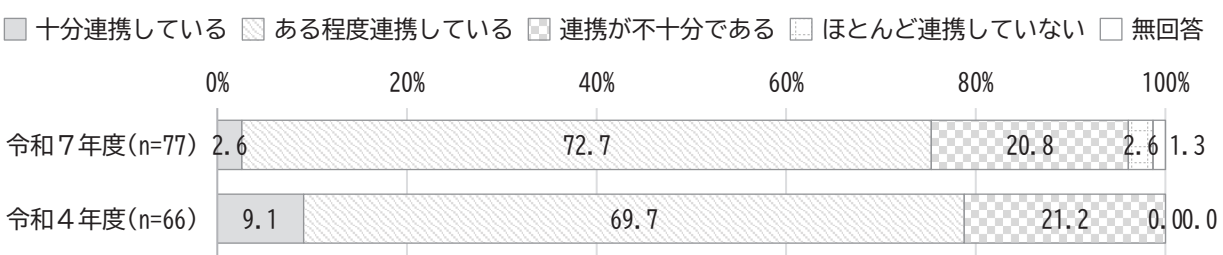
問 24 市の担当者と連携するときはどのような場合ですか。(複数回答)

「介護保険法で判断に困るとき」が 68.8%で最も高く、次いで、「虐待が認められる・虐待のおそれのあるケースへの対応」が 59.7%、「支援困難事例への対応」が 55.8%となっている。



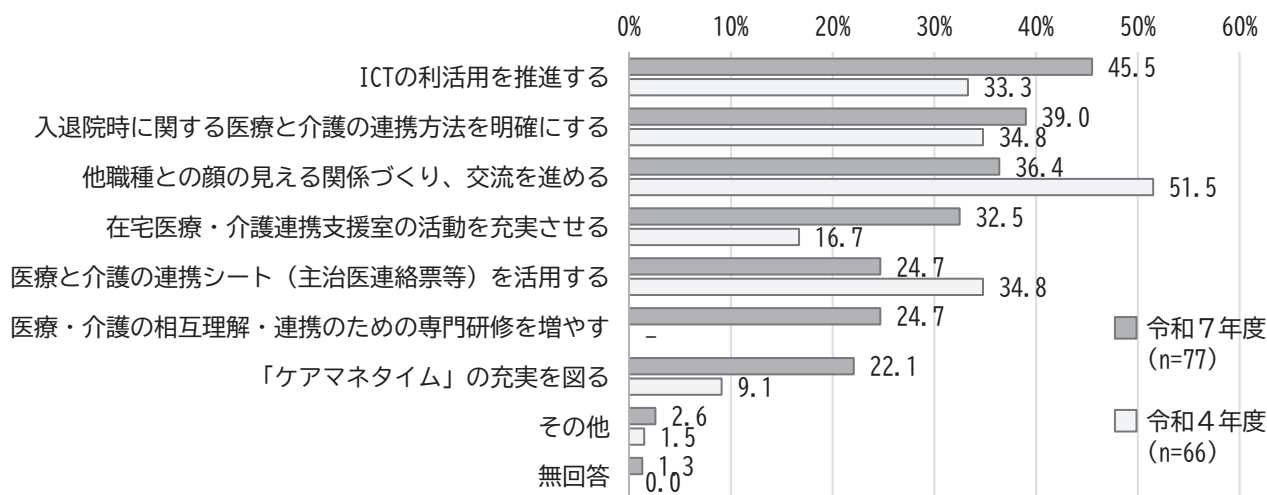
問 25 在宅療養者への医療・介護は、サービス担当者会議などを通じて連携していると思いますか。(単数回答)

「ある程度連携している」が 72.7%で最も高く、次いで、「連携が不十分である」が 20.8%、「十分連携している」が 2.6%となっている。



問 26 在宅医療と介護の連携を円滑にするための仕組みづくりのために、どのようなことが必要だとお考えですか。(複数回答)

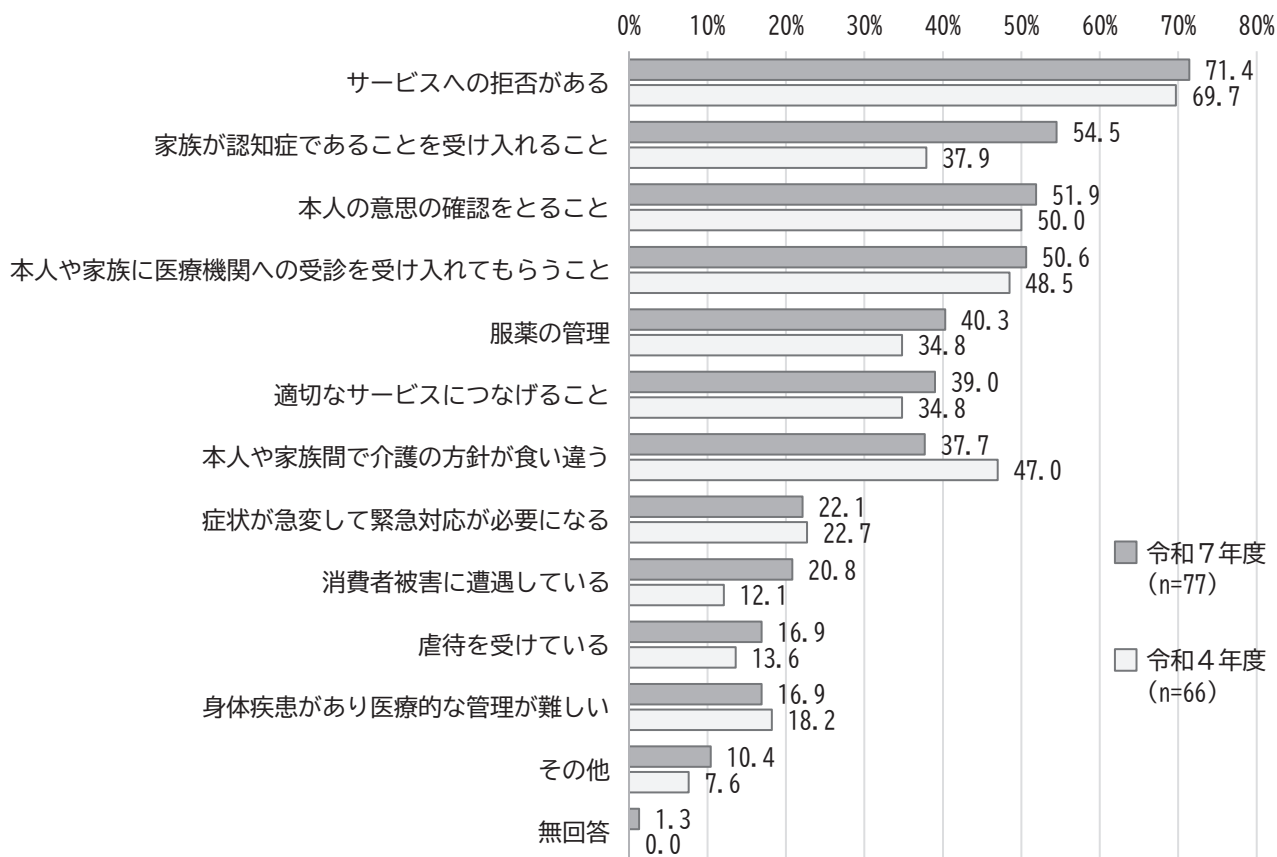
「ICTの利活用を推進する」が45.5%で最も高く、次いで、「入退院時に関する医療と介護の連携方法を明確にする」が39.0%、「他職種との顔の見える関係づくり、交流を進める」が36.4%となっている。



9. 認知症の介護について

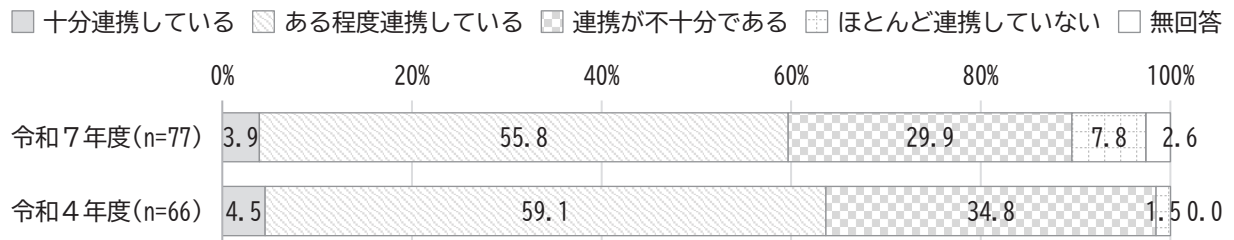
問 27 担当する認知症の方の状況で、実際に大変だったのは次のどれですか。(複数回答)

「サービスへの拒否がある」が71.4%で最も高く、次いで、「家族が認知症であることを受け入れること」が54.5%、「本人の意思の確認をとること」が51.9%となっている。



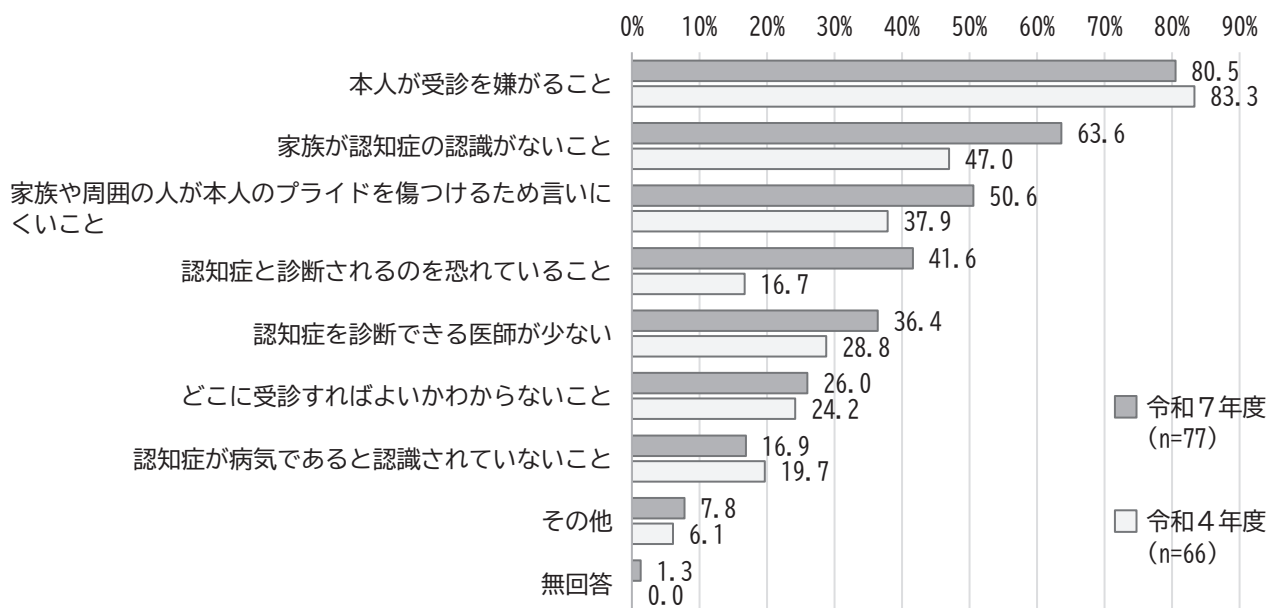
問 28 認知症の方の支援にあたっては、かかりつけ医と十分連携していると思いますか。(単数回答)

「ある程度連携している」が 55.8%で最も高く、次いで、「連携が不十分である」が 29.9%、「ほとんど連携していない」が 7.8%となっている。



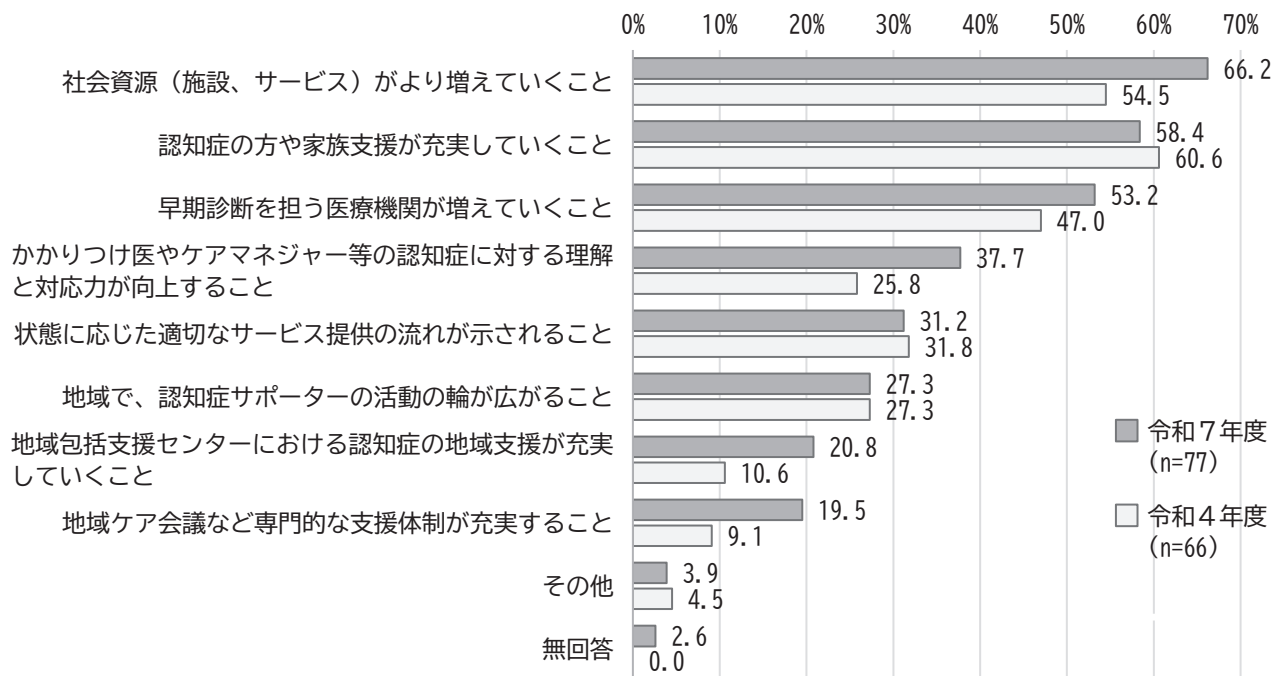
問 29 認知症の早期受診が進まない原因は、次のどれだと思いますか。(複数回答)

「本人が受診を嫌がること」が 80.5%で最も高く、次いで、「家族が認知症の認識がないこと」が 63.6%、「家族や周囲の人が本人のプライドを傷つけるため言いにくいこと」が 50.6%となっている。



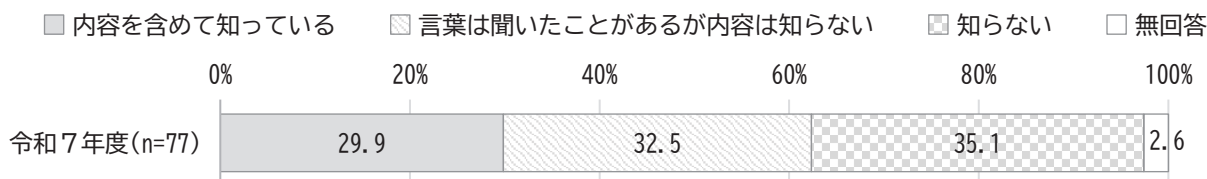
問 30 これから、認知症の方の支援にあたり必要になると思うのは次のどれですか。(複数回答)

「社会資源（施設、サービス）がより増えていくこと」が 66.2%で最も高く、次いで、「認知症の方や家族支援が充実していくこと」が 58.4%、「早期診断を担う医療機関が増えていくこと」が 53.2%となっている。



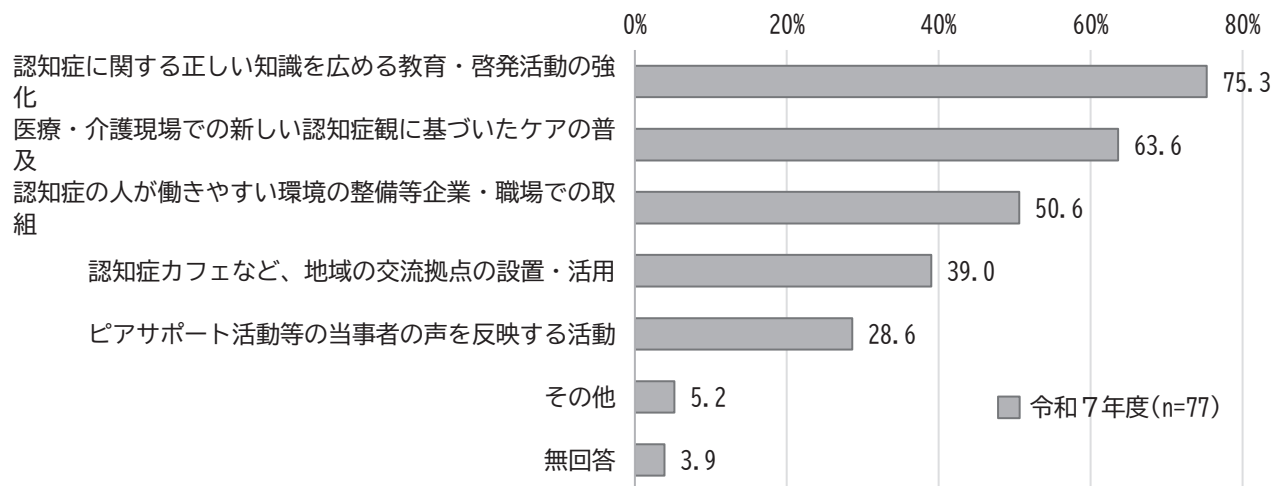
問 31 「新しい認知症観」という言葉を聞いたことがありますか。また、その内容についてご存じですか。(単数回答)

「知らない」が 35.1%で最も高く、次いで、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」が 32.5%、「内容を含めて知っている」が 29.9%となっている。



問 32 「新しい認知症観」を広めるためにどのような取組が必要だと思いますか。(複数回答)

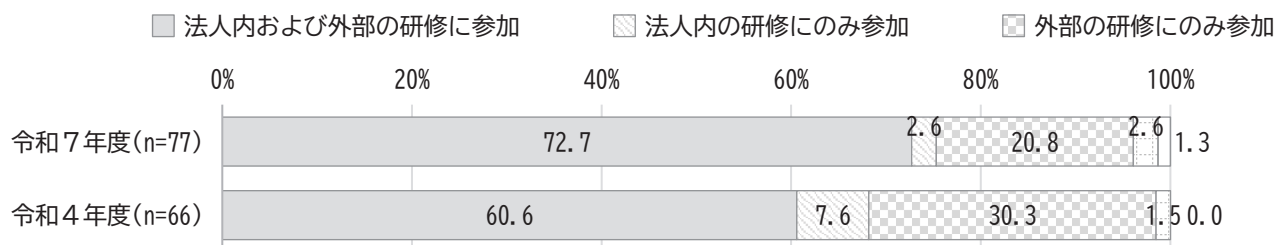
「認知症に関する正しい知識を広める教育・啓発活動の強化」が75.3%で最も高く、次いで、「医療・介護現場での新しい認知症観に基づいたケアの普及」が63.6%、「認知症の人が働きやすい環境の整備等企業・職場での取組」が50.6%となっている。



10. ケアマネジメントの質の向上について

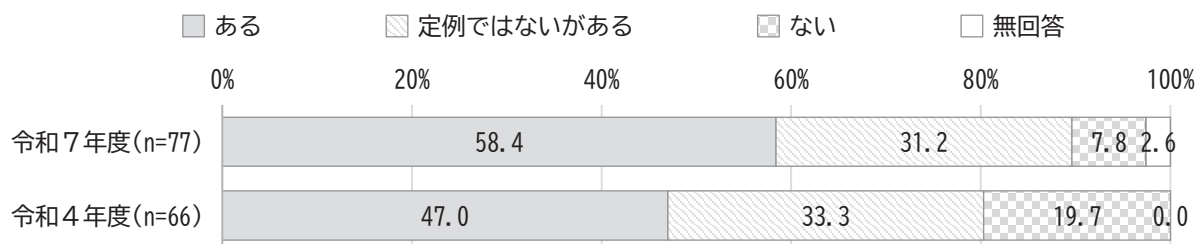
問 33 サービスの質の向上に向けた研修に参加していますか。(単数回答)

「法人内および外部の研修に参加」が72.7%で最も高く、次いで、「外部の研修にのみ参加」が20.8%、「法人内の研修にのみ参加」が2.6%となっている。



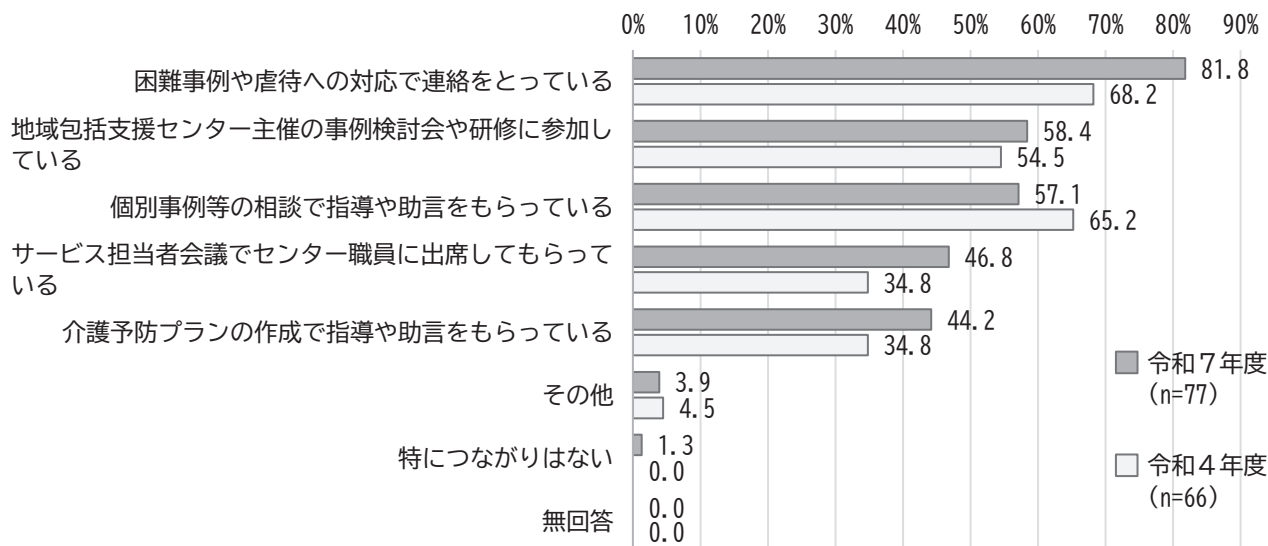
問 34 事業所内では、定例的な研修や勉強会はありますか。(単数回答)

「ある」が58.4%で最も高く、次いで、「定例ではないがある」が31.2%、「ない」が7.8%となっている。



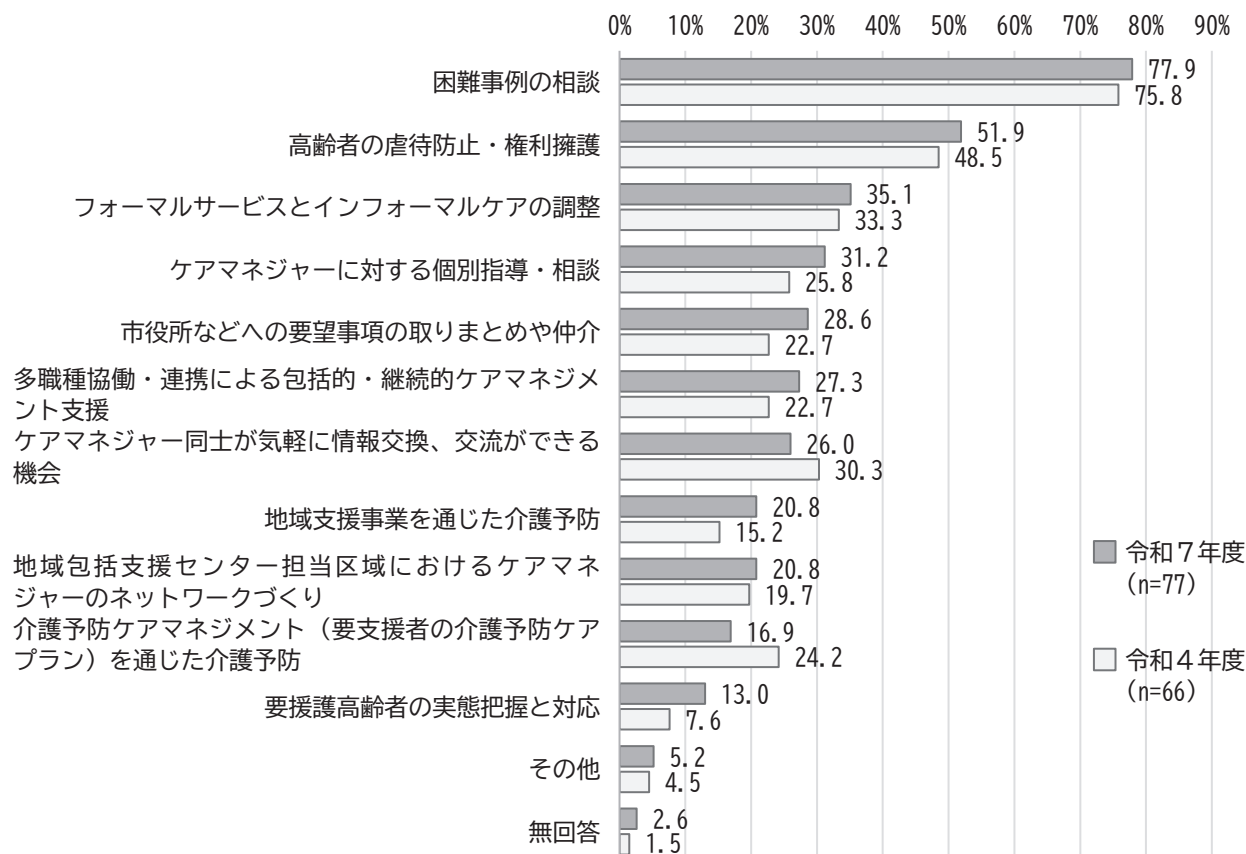
問 35 地域包括支援センターとのつながりはありますか。(複数回答)

「困難事例や虐待への対応で連絡をとっている」が81.8%で最も高く、次いで、「地域包括支援センター主催の事例検討会や研修に参加している」が58.4%、「個別事例等の相談で指導や助言をもらっている」が57.1%となっている。



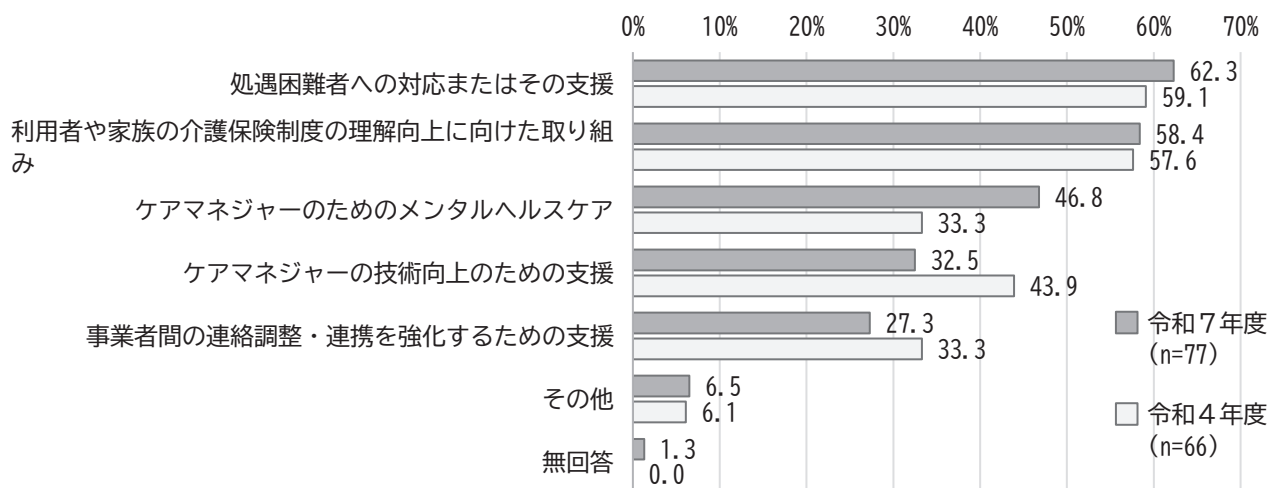
問 36 今後、地域包括支援センターへ期待することは何ですか。(複数回答)

「困難事例の相談」が77.9%で最も高く、次いで、「高齢者の虐待防止・権利擁護」が51.9%、「フォーマルサービスとインフォーマルケアの調整」が35.1%となっている。



問 37 ケアマネジャーに求められる中立性・独立性を確保するために、どのような支援が必要だと思いますか。(複数回答)

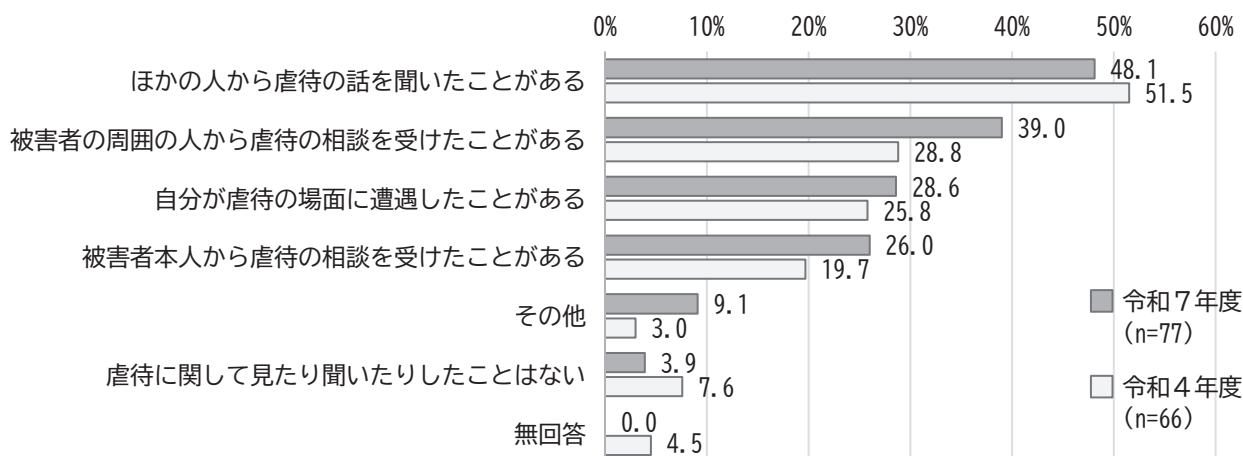
「処遇困難者への対応またはその支援」が 62.3%で最も高く、次いで、「利用者や家族の介護保険制度の理解向上に向けた取り組み」が 58.4%、「ケアマネジャーのためのメンタルヘルスケア」が 46.8%となっている。



11. 高齢者の虐待について

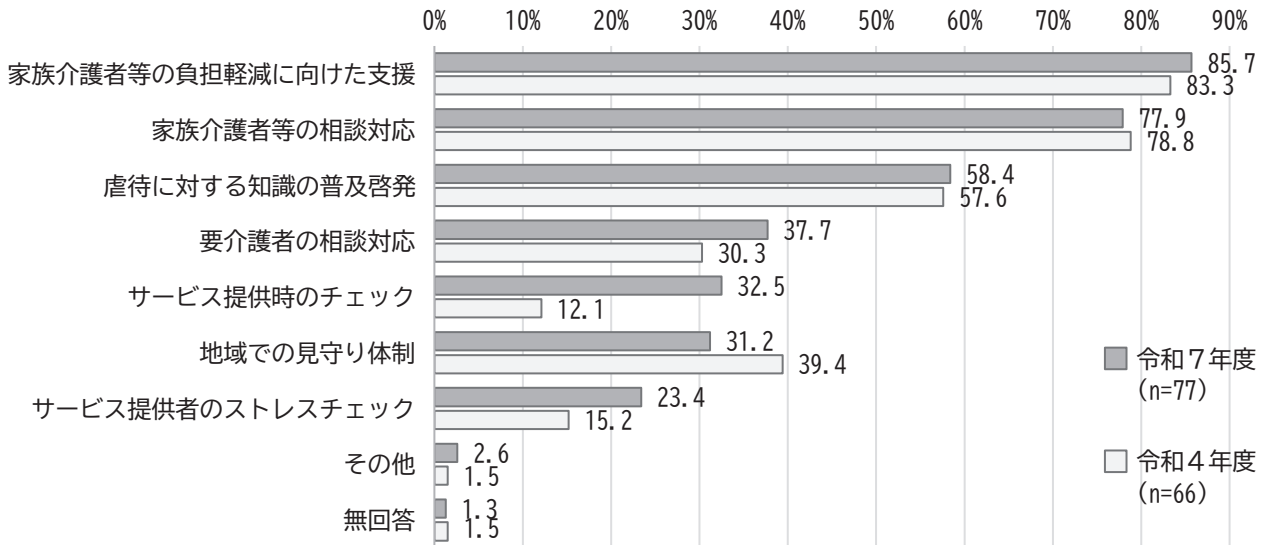
問 38 これまでに、業務を通じて高齢者虐待が疑われるような場面に遭遇したり、虐待に関する話や相談を受けたことはありますか。(複数回答)

「ほかの人から虐待の話聞いたことがある」が 48.1%で最も高く、次いで、「被害者の周囲の人から虐待の相談を受けたことがある」が 39.0%、「自分が虐待の場面に遭遇したことがある」が 28.6%となっている。



問 39 専門職の立場からみて、高齢者虐待を未然に防ぐために必要なことは何だとお考えですか。(複数回答)

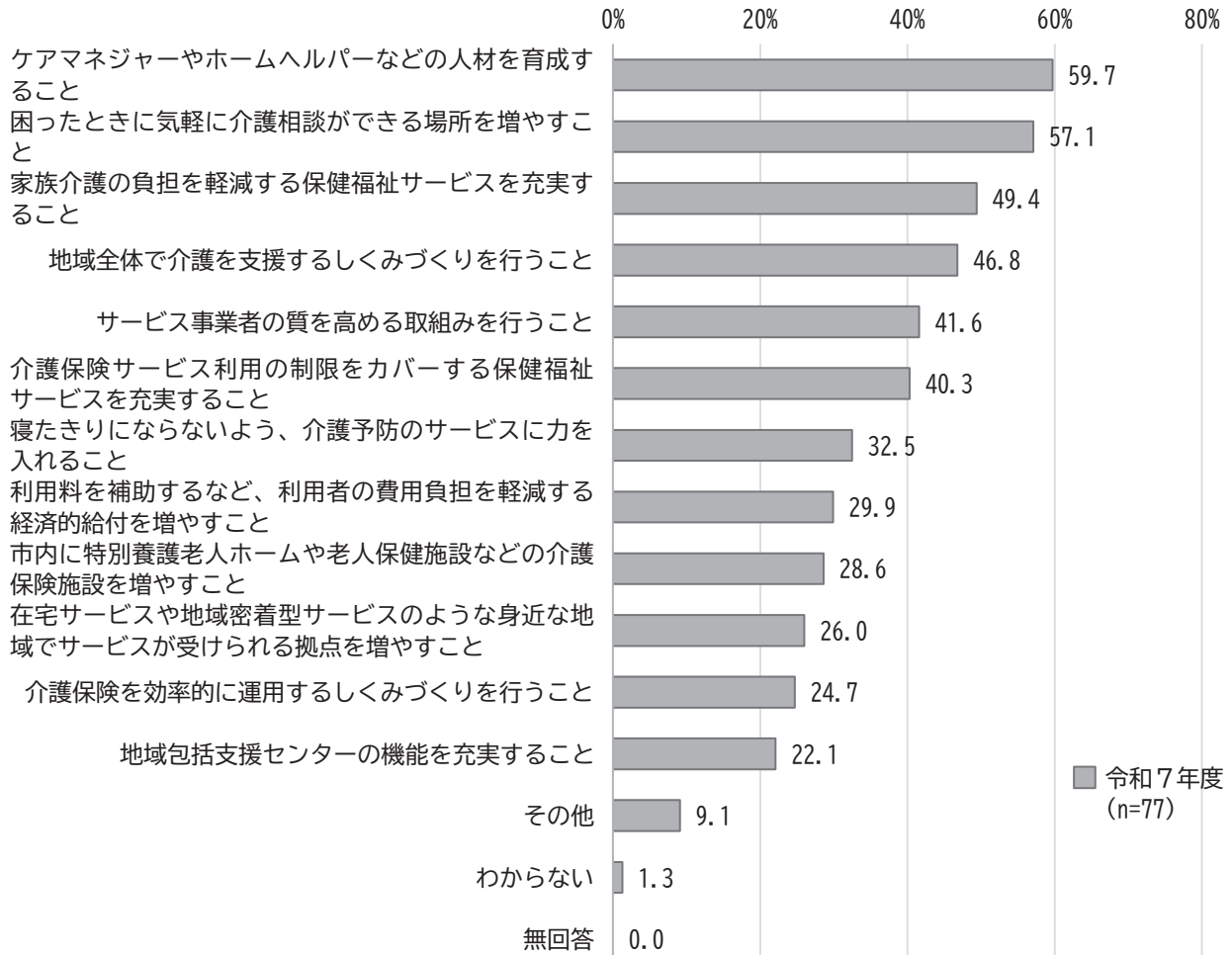
「家族介護者等の負担軽減に向けた支援」が 85.7%で最も高く、次いで、「家族介護者等の相談対応」が 77.9%、「虐待に対する知識の普及啓発」が 58.4%となっている。



12. 今後の介護サービス、高齢者福祉について

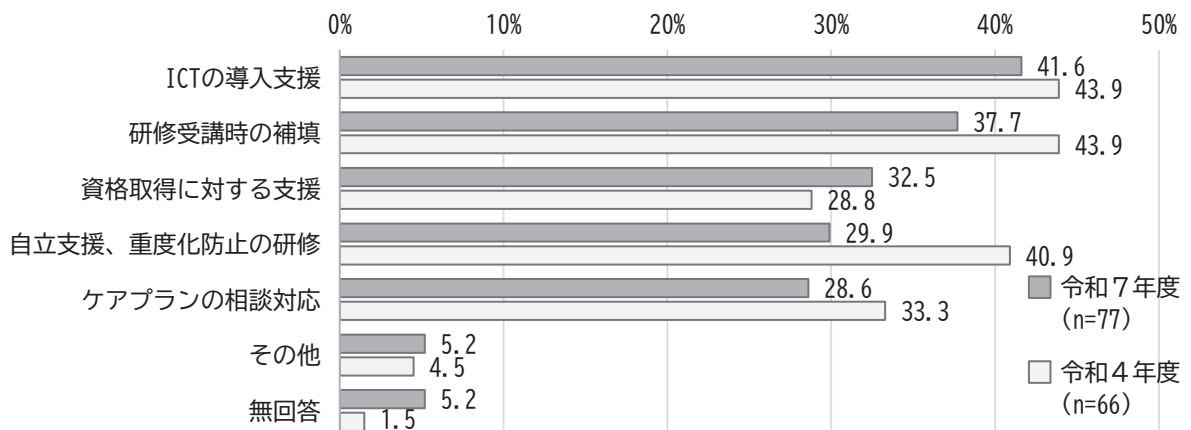
問 40 「介護保険制度」全体をよりよくするための環境整備として、市が力を入れるべきことは次のうちどれだと思いますか。（複数回答）

「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること」が 59.7%で最も高く、次いで、「困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと」が 57.1%、「家族介護の負担を軽減する保健福祉サービスを充実すること」が 49.4%となっている。



問 41 今後、ケアマネジャーの人材育成等について、市に支援をしてほしいことはなんですか。（複数回答）

「ICTの導入支援」が 41.6%で最も高く、次いで、「研修受講時の補填」が 37.7%、「資格取得に対する支援」が 32.5%となっている。



問 42 高齢者支援施策について、小金井市へのご意見・ご要望や知りたい情報などがありましたら、ご自由にお書きください。(自由回答)

※自由回答について内容ごとに分類・整理を行った。主な意見は以下のとおりである。

◆介護保険制度・サービス (8 件)

■ケアマネ事業所の運営・質 (6 件)

- ・ 恥ずかしい話したが、ケアマネ自身が首を絞めていると感じる事はある。また、包括も何でも引き受けるケアマネに集中すると感じてしまう。ケアマネ業務は何かを明確にし、それ以外はどうしたらいいか、などをロールプレイするなどの具体的研修などでケアマネを育て、質を上げる必要を感じている。つまりは、ノーが言えるケアマネになる必要があると思う。
- ・ 国の施策としては、介護者への処遇改善は盛んにおこなわれているが、ケアマネの報酬体系に変化あるとは思えず。特定事業所加算を取らない限り、ケアマネ事業所は生き残る事が出来なくなっている。何事にも隙間産業と言うものがあり、これがひとつの砦としての機能を発揮している面が社会にはあると考えている。ここに目が全く向いていない。これらの事は現場に最も近いところで見ている保険者全体が国に働き掛ける等の行動を行っているかどうか？聞きたい。特定事業所加算を取っているのは、所謂大手企業とすれば、当然管理業務専任者がいる筈で、これら企業に何の利益をもたらさない者がせっせと汗水たらして働いているケアマネが稼ぎ、ケアマネ自体の報酬向上につながっているのではあるか…？疑問を持っている。
- ・ 生活福祉課の一部の方の利用者や、ケアマネへの対応が、あまりにも理不尽であり、無責任であると感じることがある。自立支援課の対応が、優しくない。専門性を活かし丁寧に説明して下さると有難い。
- ・ ケアマネは本当に必要なのかとよく考える。年齢もあり、もう更新はしない(私は)事業所も閉鎖になるかもしれない。小さい事業所では待遇も低く、募集をかけても誰も応募などしてこない。若い人たちがケアマネになりたいと思うだろうか限界がある。
- ・ ケアマネの質の向上に資する研修やとりくみ・虐待ケースへの対応強化(保護)
- ・ 新規依頼の段階で、女性ケアマネを希望されるケースが多い気がします。どうしようもないことですが、男性ケアマネでも可の方が多いと有難いです。

■訪問介護事業の運営・質 (1 件)

- ・ 低所得者への支援として、訪問介護利用時の負担を助成するというのもよいのですが、小平市のように通所サービス利用時の食費を助成するというのも、利用者が外に出る機会を増やせそうで、介護予防に資するのではないかと思います。また非課税で負担助成を受けている人の中には資産家の方もいるので、助成の費用がもっと困っている人に有効に使われるとよいと思うことがあります。

■介護保険制度・認定 (1 件)

- ・ 介護保険を使用せず、自立して生活している高齢者(後期)に対して介護保険料の還付制度があればいいと思います。

◆行政への意見・提案 (6 件)

■相談窓口の周知・充実 (3 件)

- ・ 一人生活、キーパーソン、がいないのが大変です、生活保護みたいに相談できるような部署が欲しい。
- ・ 地域包括の機能をしっかりととはたすように指導してほしい。
- ・ ケアマネが制度上の質問をする時に、対応してくれた方によって返答が異なることがあります。利用者の方々へ、公平なサービスを提供できないのは問題かと思うので、CMの相談窓口一本化とかはできないものではないでしょうか？

■介護人材の育成・処遇改善 (1 件)

- ・ 定期的な研修実施

■行政体制・支援強化 (1 件)

- ・ 住民主体で体操や声掛けなど介護予防への取り組みは今後も必要になるため、自治体のサポートは欠かせません。また独自、自費サービスの需要が高まって来ている中で、包括や事業所任せにしてしまうと進まないため、市としての協力体制や、一部補助等具体的な計画があると良いと思います。

■情報提供・周知の工夫 (1 件)

- ・ 介護保険制度の説明を一般市民を対象に定期的に行って欲しい。

<p>◆生活課題・困りごと（4件）</p> <p>■移動に関する支援（2件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小金井は独特のはけという地形がある為、坂道が多く、移動がとても困難です。シルバーパスを使って動ける人は良いですが、どこへ行くにもタクシーで移動する以外にない方も多いです。自宅から病院まで利用できるタクシー券の補助や以前あった、移動サポート事業が復活してほしいです。 ・認知症当事者や家族が認知症カフェなどに参加する際の移動手段の検討を行ってほしい。利用料金の補助をしてほしい。お元気サミットなども興味があるが、行くのが大変。との声を聞いたため。他の市町村でも認知症カフェなどの開催に際して、運営費もそうだが、本人たちの移動手段が悩ましいところがあると聞いたため。スタンプリーのボランティアなども行いたいとおもうが、募集などがされているかがわからない。 <p>■認知症への対応・支援（2件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症で1人暮らしの方で金銭管理ができないことが一番介護サービスの提供にあたり困ります。成年後見制度や家計相談など支援サービスの公的な窓口をなんとか人数を増やして手厚い対応をお願いしたいです。 ・認知症の方の見守り支援、家族が帰宅するまでの短時間を介護保険以外で手軽に利用できるとよい。
<p>◆在宅生活支援（2件）</p> <p>■生活支援（2件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険者によって取り組みは様々ですが、やはり経済的な面ではオムツの支給対象の幅を拡げてほしい。配食サービスも今回変わりましたが、同居家族が居ると対象にはなれないが、ここも幅を拡げて欲しい。常食が取れない人は多少対象になるなどあると良い。ゴミ出しなども含め、普通の生活を送ることは結構細々として大変な事が多い。移動販売や買い物に行けずに困る場合の日用品以外の大きめの物の購入などネットの出来ない世代は探すだけでも大変。ネット購入できる環境や支援など出来ると良い。 ・子ども世代の介護者がいないか、介護力がないか、離れて暮らし、独居や高齢者世帯が増えている現状に沿った、高齢福祉サービス制度の見直しを強く希望します。特におむつサービス、徘徊高齢者探索サービス。
<p>◆その他（2件）</p> <p>■その他（2件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつもありがとうございます。 ・いつも丁寧な窓口対応ありがとうございます。